

特 251

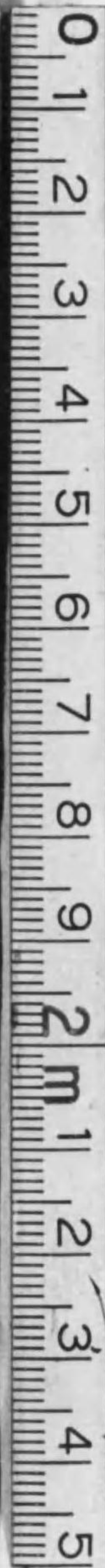
842

昭和十一年

# 家庭便覽

岐阜新聞社

始





岐阜縣岐阜市各小學校(尋五以上)並に市内中等學校生徒に「あなたの御家庭では何新聞を讀んでおますか」  
 の間に對し筆記回答の「一覽表」

生徒の答案には總て學校の捺印をして保管してありますから参考の爲め御覽を希望の方には喜んで御提示致します(尙ほ各埠順次調査中)

(稻葉郡各學校の分は裏面にあり)

昭和十年十月調

東京市京橋區横町二丁目

新聞調査局

新聞名	校名 合計	三里	明德	本莊	徹明	京町	鷺山	日野	華陽	長良	金華	白山	梅林	本郷	島	第二中學	岐阜商業	岐阜中學	富田高女	佐々木高女	岐阜高女	稻葉郡 岐阜市 合計
(生徒數)	8749	174	631	253	675	686	116	136	154	299	695	290	435	446	598	434	705	823	452	131	616	14454
岐阜新聞	2378	87	204	84	199	163	30	34	44	53	241	92	125	151	116	72	174	175	129	21	184	3839
岐阜日日新聞	1341	21	136	18	102	144	26	7	7	42	101	37	49	69	34	48	130	132	57	15	166	1839
新愛知新聞	2326	22	179	62	139	174	11	3	30	54	186	75	129	101	138	139	252	215	161	58	198	3077
名古屋新聞	1117	6	101	21	147	76	2	0	22	10	58	44	43	43	66	49	137	103	63	18	108	1400
大阪朝日新聞	1439	6	121	10	91	97	2	3	5	15	98	34	51	36	32	76	199	263	96	32	172	1675
大阪毎日新聞	1351	4	84	20	91	115	0	0	6	13	92	29	46	47	12	90	169	236	78	35	184	1551
報知新聞	125	0	13	1	10	7	0	0	4	2	13	5	1	2	3	11	15	18	4	2	17	136
中外商業新報	111	5	5	0	6	2	0	0	0	3	7	2	3	1	4	6	24	12	6	1	24	126
讀賣新聞	96	3	3	1	1	7	0	0	0	1	4	2	2	1	0	5	16	15	7	2	23	106
岐阜民友新聞	96	1	7	0	5	18	0	0	3	0	8	2	8	2	6	2	15	8	4	0	9	126
計	10380	155	853	217	794	803	71	47	118	193	808	322	457	453	411	498	1129	1177	605	184	1085	13925

岐阜縣稻葉郡各小學校（尋五以上）の兒童に「あなたの御家庭では何新聞を讀んでゐますか」の問に  
對し筆記回答の「一覽表」

兒童の答案には總て學校の捺印をして保管してありますから参考の爲め御覽を希望の方には喜んで御提示致します（尙ほ各地順次調査中）

（岐阜市各學校の分は裏面にあり）

昭和十年十二月調

東京市京橋區橫町二丁目 新聞調査局

新聞名	校名 合計	加 納	加 納 第 二	黒 野	常 磐	岩	芥 見	鏡 島	前 宮	蘇 原	茜 部	佐 波	更 木	縣 方	鶉 沼	那 加	且 格	厚 見	北 長 森	市 橋	木 田	長 森	則 武	各 務	
(兒童數)	5705	490	383	319	167	137	217	320	201	333	139	113	148	187	145	485	358	125	243	404	159	145	217	104	166
岐阜新聞	1461	128	128	84	21	32	47	76	45	91	49	27	31	35	33	85	91	27	98	111	54	43	45	28	52
岐阜日日新聞	548	74	32	63	17	11	29	63	4	21	16	5	12	11	4	5	22	7	13	64	11	29	27	3	5
新愛知新聞	751	135	74	23	17	6	15	76	36	35	17	12	16	11	13	45	41	8	28	48	29	8	30	18	10
名古屋新聞	283	42	23	22	7	4	5	16	23	11	0	5	7	7	4	30	25	2	14	9	8	4	10	2	3
大阪朝日新聞	236	33	41	7	3	4	4	24	8	6	2	8	4	3	3	9	18	4	3	21	6	1	15	3	6
大阪毎日新聞	200	31	16	6	2	1	4	26	7	11	2	5	7	3	5	23	13	2	1	3	8	2	18	0	4
報知新聞	11	2	2	0	1	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	3	0	0	0	2	0	0	0	0	0
中外商業新報	15	0	0	0	0	0	0	8	0	0	1	0	0	0	0	1	2	0	1	1	1	0	0	0	0
讀賣新聞	10	1	2	0	0	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	1	0	0	0	0	1
岐阜民友新聞	30	12	4	6	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	2	0	2	0	0	0	2	0	0
計	3545	458	322	211	68	58	104	292	123	176	87	62	77	72	62	201	216	50	160	260	117	87	147	54	81



**大歳神**  
**大将軍**  
**大陰神**  
**歳刑神**



方子 歳星なり此方に向ひ  
木を伐ること築造等  
回すべし  
此方三年ふきがりさ  
云ひ殺伐を専らにす  
懼むべし  
此方一切婦人に關す  
は凶に向ひ婚禮出産  
る事を忌む  
此方に向ひ穀類種蒔  
すべからず  
方卯 等は凶不作を生ず  
方戌 此方に向ひ穀類種蒔  
る事を忌む  
方酉 此方に向ひ穀類種蒔  
る事を忌む

**歳破神**  
**歳殺神**  
**黄幡神**  
**豹尾神**

方午 大凶の方なり轉宅旅  
行船乗り等萬事慎む  
べし  
方未 此方に向ひ婚姻養子  
雇人等を懐きまへし  
方辰 此方に向ひ建築等  
損害多し  
方戌 此方に向ひ一切の畜  
類を求め養ふ事は凶  
なり慎むべし

あきの方  
萬(間の午巳)

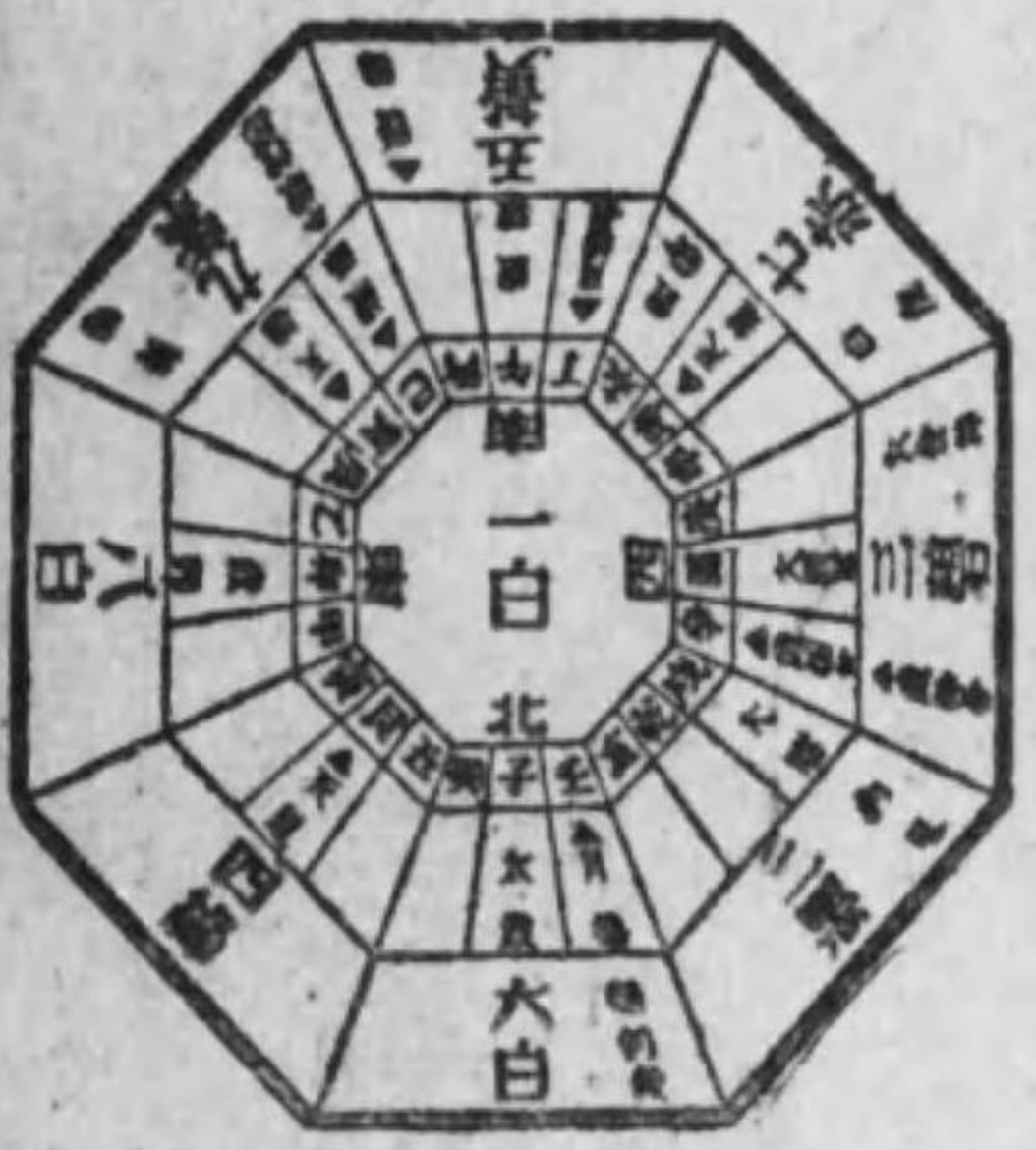
**歳徳神の解**

歳徳神は年中の徳神にして幸徳を  
掌る神なれば諸事此方に向ひて進  
み爲すときは善愛感じ集り、衆殃  
は自ら避く宜しく前進すべきの大  
吉方とす、凡そ十干の内にして甲  
丙戊庚壬の五を陽干とす、乙丁巳  
辛癸の所を陰干とす、俗に乙巳と  
いふは之れである、及は兄なり、  
さは弟である、而して兄は心の儘  
に行ふが故に陽干の年は其の年の  
干の方を以て歳徳明きの方とす、  
陰干は兄に從ひ自ら其徳なきを以  
て陽干に配合して其の徳を成す、  
蓋し陽は君の道にして陰は臣の道  
なれば君の徳は自ら其處に處し、  
臣の徳は君に從ふに依る、其本位  
を棄て、陽に從ふのである、故に  
甲年には其徳申にあり乙年には其  
徳庚にあり、辛年には丙にあるの  
である、其理むる所は宜しく幸福  
を得べき陰陽和合順理の方とす、  
此の大吉方は本年は巳午の間即ち  
丙の方なり、惠方としてあきの方  
である。

**年神方位の説明**

昭和十一年丙子年は九星學上にては中元に入  
り一白水星中央に位其他の諸星は八方に轉  
座し運用を助く、而して八白星は本年東方に  
ありて本命星座と稱し其尊座西方を的殺と云  
ひ共に注意すべき方位とす、尙ほ五黄殺は南  
方及び暗殺は北方にして忌まる、其間には吉  
神凶相混り、吉神は百央を解き慶福を主るを  
以て進むに宜しく凶殺は崇禍を専らにして害  
あり、詳しきは左の圖を見よ

**年神方位の圖**



▲印吉神

**金神**



**金神四季遊行日**  
春 四月三日より五日間東の  
方あり  
夏 五月廿四日七月廿三日よ  
り五日間南の方あり  
秋 十月六日より五日間西の  
方あり  
冬 一月卅一日十一月廿六日  
より五日間北の方あり  
右は凶方なれば何事も注意すべし

**金神**

**平常金神遊行日**  
甲寅の日より五日間南方あり  
丙寅の日より五日間西方あり  
戊寅の日より五日間中央あり  
庚寅の日より五日間北あり  
壬寅の日より五日間東方あり  
右遊行の間は此方を用ひて可  
なり但し遊行の方位は犯す可  
からず

**八專入**

一月	卅一日
三月	卅一日
五月	卅一日
七月	廿九日
九月	廿七日
十一月	廿六日

**八專終**

二月	十一日
四月	十一日
六月	十一日
八月	九日
十月	八日
十二月	七日

○八專は左の八日干子より終日癸亥迄の中丙辰戌午干  
戌癸丑の四日間を除きたる他の八日を稱す干支の氣一  
方偏專するを以て并立棟上等に之を用ひ神禮雇人賣  
買等は忌まる

**去凶神**

春は龍に在り龍の改築は凶  
夏は門に在り門の新築は凶  
秋は井に在り井戸堀りは凶  
冬は庭に在り庭の普請は凶

**一天上天**

一月	十二日
三月	十二日
五月	十一日
七月	十日
九月	八日
十一月	七日

**天救日**

二月	廿六日
四月	廿六日
五月	廿六日
七月	廿一日
九月	廿三日
十二月	八日

○天一天上は天一神天上  
に旅行し此日より以後戌  
申まで十六日同請事大吉

○天救日は天の萬物を生  
養し其罪を宥し其災禍を  
解くを以て萬吉の日なり

**四季土用**

冬 一月十八日  
春 四月十七日  
夏 七月二十日  
秋 十月二十日  
土用は地氣格別に旺んにし  
て變化を生ずるが故に人の  
病氣も此時に懸る草木禽  
獸も亦氣を受るを以て土用  
の種蒔礎石柱立井堀出動等  
は凶

**三隣亡日**

一月 十三日 廿五日  
二月 十一日 廿三日  
三月 九日 廿一日  
四月 二日 六日 十八日 卅日  
五月 十七日 廿九日  
六月 十三日 廿五日  
七月 十一日 廿三日  
八月 四日 九日 廿一日  
九月 二日 十七日 廿九日  
十月 十五日 廿七日  
十一月 十三日 廿五日  
十二月 十日 廿二日  
三隣亡は家屋新築柱立始  
め等絶対に忌む大凶日也

◇年中行事一覽

四方拜 一月一日。天皇陛下が朝早く宮城において天地四方及び山陵を禮拜し、國の安寧を御いのりになる儀式學校に式がある。

元始祭 一月三日。天皇陛下が、天地及び御代々の天皇の、みたまを御まつりになる大祭。

新年宴會 一月五日。天皇陛下が、宮中に、陛下を御召しになつて盃をたまはる日。

なごくさ 一月七日。春の七草の菜、せり、なづな、ごぎょうはこべ、ほごけのさ、すずな、すずしろを粥の中に入れて祝ふ日。

初 午 二月の初めの午の日、稲荷さまのおまつり。  
分 大抵二月三日。季節が一まはりした一番終りの日この日に追廻の儀式が行はれます。即ち、豆をまいて粥を煮、不祥を追ひ拂ひあらためて福を招くのです。

紀元節 二月十一日。神武天皇が大和の橿原の宮に御即位し給うた日に當り、學校に式があります。

ひなまつり 三月三日。女の子のお節供。おひなさまをかざり白酒を祝ふ。

地久節 三月六日。皇后陛下の御誕生を御祝ひする日です。  
春季皇靈祭 大抵三月廿一、二日。春のおひがんの中日、天皇陛下が宮中で皇祖皇宗の御たまを御まつりになります。

神武天皇祭 四月三日。神武天皇のおかくれになつた日に當る。

灌漑供會 四月八日。この日は、お釋迦さまの誕生日です。此日に、佛像に甘露水をそそぎかけて佛事を行います。

天長節 四月二十九日。今上天皇陛下の御誕生日です。學校に式があります。

端午の節供 五月五日。男の子の祝ふ節供、外には鯉のぼりを立て、室内に武者人形をかざり、また、しょうぶ湯を立てるはひります。

七夕 七月七日。この夜、牛言ふ男の星と織女といふ女の星が天の川を渡つてお會ひになる日です。子供が笹にたんざくなごを掛けて祝ひます。

うらばん 八月十五日。生靈祭と言つて、なくなつた人達の靈をまつる日です。

菊の節供 九月九日。今は此御祭りがたん／＼なくなりました。舊曆八月十五日の夜。大そ／＼月が美しくなり、お月さまに、いろ／＼のものを供へておまつりします。

秋季皇靈祭 大抵九月廿四、五日。秋のおひがんの中日です。天皇陛下が宮中で皇祖皇宗の御たまをお祀になります。

神嘗祭 十月十七日。今年されたお米を天照大御神にささげ奉るおまつりです。

明治節 十一月三日。明治天皇の御誕生日です。明治天皇をお祀する日です。

新嘗祭

十一月二十三日。天皇陛下が今年されたお米をはじめてお上りになる日のおまつりです。  
十二月二十五日。大正天皇がおかくれになつた日です。大正天皇の御たまをおまつりする日です。

◇曆の節一覽

分 二月三日頃。一年の季節が全く一まはりして終つた日です。今年と来年との分れ目の日です。

立春 二月四日頃。節分の翌日。この日から春の季節になります。春の彼岸 三月十八日頃。春の彼岸の入りの日。彼岸は七日あります。彼岸の中の日が晝夜共に同じ長さ。これからたん／＼氣候が暖くなります。

八十八夜 五月二日頃。立春の日から數へて八十八日目の日。霜のやむ頃で農家では、この頃から畑や田に種子を下すから夏の季節にはひります。

入梅 六月十二日頃。これから五月雨の季節にはひります。入梅から一箇月の期間を梅雨期といひます。

夏至 六月二十二日頃。一年中で一番日が長い時です。太陽は真東から出て、真西に入ります。

半夏生 七月三日頃。夏至の後十一日目頃、稻の苗を蒔き終りみのりを履ひ祝ふ日です。

小暑 七月八日頃。暑さがひさくなつて來ます。

大暑 七月二十三日頃。一年中で一番暑いと言はれる日。  
立秋 八月八日頃。この日から秋の季節になります。  
二百十日 九月一日頃。立春から二百十日の日。この頃大變風雨があるので、特に農家ではおそれる。  
秋の彼岸 九月二十一日頃。秋の彼岸の入りの日。これからたん／＼氣候が寒くなります。  
立冬 十一月八日頃。この日から冬の季節に入ります。  
冬至 十二月二十二日頃。冬の最中、一年中で最も日の短い時です。  
小寒 一月六日頃。ひさく寒くなつて來ます。  
大寒 一月二十一日頃。最も寒い季節です。  
土用 春、夏、秋、冬の終り各十八日六時餘の期間をいひます。所謂氣候のかはり目ですから、からだを大切にしなければならぬといはれるのです。  
春分 秋分に近い「つちのえ」の日に、土の神をまつる日です。

◇十干十二支の話

木(き)、火(ひ)、土(つち)、金(かね)、水(みづ)、の五つを(甲、乙、丙、丁)に分けて十にしたものです。(十の幹と言ふ意味です)  
甲(きのえ) 乙(きのこ) 丙(ひのえ) 丁(ひのこ)  
戊(つちのえ) 己(つちのこ) 庚(かのえ) 辛(かのこ)





一月 (大) 正月 太過月

十五日	十四日	十三日	十二日	十一日	十日	九日	八日	七日	六日	五日	四日	三日	二日	一日
	廿二日月	廿一日月				朔十五日			小寒	日新年宴會		元始祭		四 方 時
ひのえ申	きのこ未	きのえ午	きのえ辰	きのえ寅	かのえ卯	かのえ寅	つちのこ丑	つちのこ子	ひのこ亥	ひのこ戌	きのこ酉	きのこ申	みづのこ未	みづのこ午
六白	五黄	四緑	三碧	二黒	九紫	九紫	八白	七赤	六白	五黄	四緑	三碧	二黒	一白
あやふ	やぶる	さる	さたむ	たひら	のぞく	のぞく	たつ	さする	ひらく	ひらく	おさむ	なる	あやふ	やぶる
友引	先勝	赤口	大安	佛滅	友引	友引	先勝	赤口	大安	佛滅	先負	友引	先勝	赤口
箕	尾	心	房	氏	亢	角	軫	翼	張	星	柳	井	井	參
廿一日	廿日	廿九日	廿八日	廿七日	廿六日	廿五日	廿四日	廿三日	廿二日	廿一日	二十日	十九日	十八日	十七日
八日上弦月		六日月			廿六日月		朔正月		大寒			(日)	土	廿三日
みづのこ子	かのこ亥	かのこ戌	つちのこ酉	つちの申	ひのこ未	ひのこ辰	きのこ巳	きのこ辰	みづのこ卯	みづの寅	かのこ丑	かのこ子	つちのこ亥	つちの寅
四緑	二碧	一黒	九紫	八白	七赤	六白	五黄	四緑	三碧	二黒	一白	九紫	八白	七赤
さる	ひらく	さむ	なる	あやふ	やぶる	さる	さたむ	たひら	みつる	たつ	さする	ひらく	をさむ	なる
友引	先勝	赤口	大安	佛滅	友引	友引	先勝	赤口	先負	友引	先勝	赤口	大安	佛滅
鬼	井	參	箕	畢	奎	室	危	虛	危	室	虛	女	牛	斗

二月 (小) 如月 梅見月

十五日	十四日	十三日	十二日	十一日	十日	九日	八日	七日	六日	五日	四日	三日	二日	一日
	廿二日月	廿一日月				(日)十七日月			初午	立春	節分		(日)	舊正月九日
ひのこ卯	ひのえ寅	きのこ丑	きのこ子	みづのこ亥	みづのこ戌	かのこ酉	かのこ申	つちのこ未	つちのこ午	ひのこ巳	ひのこ辰	きのこ卯	きのこ寅	みづのこ丑
一白	九紫	八白	七赤	六白	五黄	四緑	三碧	二黒	一白	九紫	八白	七赤	六白	五黄
のぞく	たつ	さする	ひらく	をさむ	なる	あやふ	やぶる	さる	さたむ	たひら	たひら	みつ	のぞく	たつ
大安	佛滅	先負	友引	先勝	赤口	大安	佛滅	先負	友引	先勝	赤口	大安	佛滅	先負
女	牛	斗	箕	尾	心	房	氏	亢	角	軫	翼	張	星	柳
十六日	十七日	十八日	十九日	二十日	廿一日	廿二日	廿三日	廿四日	廿五日	廿六日	廿七日	廿八日	廿九日	三十日
(日)廿四日		廿六日月		雨			(日)廿二日	下弦月						
つちのこ辰	つちの巳	かのこ午	かのこ未	みづの申	みづの酉	みづの戌	きのこ亥	きのこ戌	きのこ酉	ひのこ申	ひのこ未	ひのこ辰	ひのこ卯	つちの寅
二黒	三碧	四緑	五黄	六白	七赤	八白	九紫	八白	七赤	六白	五黄	四緑	三碧	二黒
なる	たひら	さる	さたむ	やぶる	あやふ	なる	をさむ	なる	あやふ	やぶる	さる	さたむ	たひら	なる
先負	先勝	赤口	友引	先勝	赤口	大安	友引	先勝	赤口	大安	佛滅	先負	先勝	赤口
斗	牛	女	虛	危	室	奎	畢	箕	參	井	鬼	柳	友引	柳

潤年

神武天皇紀年數を四で割つて割れる年は潤年として割れぬ年は平年として紀元年數から六百六十を引き残り百を引ると四で割れぬ年也  
(明治三十一年勅令)

三月 (大)

彌生月 花見月

十五日	十四日	十三日	十二日	十一日	十日	九日	八日	七日	六日	五日	四日	三日	二日	一日
廿一日月	廿一日月	十九日月	十九日月	十七日月	十七日月	十五日	十五日	十五日	十五日	十一日月	十一日月	十一日月	八日月	八日月
ひのえ申	きのこ未	きのこ午	みづのさ巳	みづのえ辰	かのえ卯	かのえ寅	つちのさ丑	つちのえ子	ひのえ亥	ひのえ戌	きのこ酉	きのこ申	みづのさ未	みづのえ午
二碧	二黒	一白	九紫	八白	七赤	六白	五黄	四緑	三碧	二黒	一白	七紫	八白	十赤
ささる	さたむ	たひら	みつる	のぞく	たつ	ささる	ひらく	なまむ	なる	なる	あやふ	やぶる	ささる	さたむ
大安	佛滅	先負	友引	先勝	赤口	大安	佛滅	先負	友引	先勝	赤口	大安	佛滅	先負
虚	女	牛	斗	箕	尾	心	房	氏	亢	角	軫	翼	張	畢
廿一日	廿一日	廿九日	廿八日	廿七日	廿六日	廿五日	廿四日	廿三日	廿二日	廿一日	二十日	十九日	十八日	十七日
八月上弦月	八日上弦月	日	日	五日	五日	三日	三月朔日	三月朔日	日	日	日	廿六日月	廿六日月	社日
みづのえ子	かのえ亥	かのえ戌	つちのさ酉	つちのえ申	ひのえ未	ひのえ午	きのこ巳	きのこ辰	みづのさ卯	みづのえ寅	かのえ丑	かのえ子	つちのさ未	つちのえ辰
一白	九紫	八白	七赤	六白	五黄	四緑	三碧	二黒	一白	九紫	八白	七赤	六白	五黄
なまむ	なる	あやふ	やぶる	ささる	さたむ	たひら	みつる	のぞく	たつ	なまむ	なる	あやふ	やぶる	ささる
大安	佛滅	先負	友引	先勝	赤口	大安	佛滅	先負	友引	先勝	赤口	大安	佛滅	先負
虚	女	牛	斗	箕	尾	心	房	氏	亢	角	軫	翼	張	畢

四月 (小)

卯月 花見月

一日	二日	三日	四日	五日	六日	七日	八日	九日	十日	十一日	十二日	十三日	十四日	十五日
舊三月十日		神武天皇祭		日(清明)		十六日満月		十八日月		廿日月		廿二日月	廿三日月	廿四日月
みづのさ丑	きのこ寅	きのこ卯	ひのえ辰	ひのえ巳	つちのえ午	つちのさ未	かのえ申	かのえ酉	みづのえ戌	みづのさ亥	きのこ子	きのこ丑	ひのえ寅	ひのえ卯
二黒	三碧	四緑	五黄	六白	七赤	八白	九紫	一白	二黒	三碧	四緑	五黄	六白	七赤
ひらく	なまむ	たつ	のぞく	のぞく	みづる	たひら	さたむ	ささる	やぶる	あやふ	なる	かさむ	ひらく	ささる
赤口	先勝	友引	先負	佛滅	大安	赤口	先勝	友引	先負	佛滅	大安	赤口	先勝	友引
軫	角	亢	氐	房	心	尾	箕	斗	牛	女	虚	危	室	壁
十六日	十七日	十八日	十九日	二十日	廿一日	廿二日	廿三日	廿四日	廿五日	廿六日	廿七日	廿八日	廿九日	三十日
日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日
つちのえ辰	つちのさ巳	かのえ午	かのえ未	みづのえ申	みづのさ酉	きのこ戌	きのこ亥	ひのえ子	ひのえ丑	つちのえ寅	つちのさ卯	かのえ辰	かのえ巳	みづのえ午
八白	九紫	一白	二黒	三碧	四緑	五黄	六白	七赤	八白	九紫	一白	二黒	三碧	四緑
たつ	のぞく	なまむ	ささる	さたむ	たひら	みつる	のぞく	たつ	なまむ	なる	あやふ	やぶる	ささる	ささる
先負	佛滅	大安	赤口	先勝	友引	先負	佛滅	大安	赤口	先勝	友引	先負	佛滅	大安
奎	婁	胃	昂	畢	参	井	鬼	柳	星	張	翼	軫	角	角

五月 (大) 皁月 早苗月

十五日	十四日	十三日	十二日	十一日	十日	九日	八日	七日	六日	五日	四日	三日	二日	一日
	廿四日月 下弦月		廿二日月		廿一日 日)廿日月			十七日滿月	立夏		十四日月	日)	八十八夜	舊閏三月
ひのえ酉	ひのえ申	きのこ未	きのこ午	みづのさ巳	みづのえ辰	かのえ卯	かのえ寅	つちのさ丑	つちのえ子	ひのえ亥	ひのえ戌	きのこ酉	きのこ申	みづのさ未
九紫	九紫	八白	七赤	六白	五黄	四緑	三碧	二黒	一白	九紫	八白	七赤	六白	五黄
さたむ	たひら	みつる	のぞく	たつ	さする	ひらく	をさむ	なる	あやふ	あやふ	やぶる	さる	さたむ	たひら
先負	友引	先勝	赤口	大安	佛滅	先負	友引	先勝	赤口	大安	佛滅	先負	友引	先勝
兼	奎	壁	室	危	虚	女	牛	斗	箕	尾	心	房	氏	亢
廿一日	廿一日	廿九日	廿八日	廿七日	廿六日	廿五日	廿四日	廿三日	廿二日	廿一日	二十日	十九日	十八日	十七日
	日)		八日上弦月		五日	五日	日)	三日	小滿	舊四月朔日	廿九日月	廿九日月		廿六日月
みづのさ丑	みづのえ子	かのえ亥	かのえ戌	きのこ酉	きのこ申	つちのえ辰	つちのえ卯	ひのえ寅	ひのえ丑	きのこ子	きのこ酉	かのえ子	かのえ酉	つちのえ戌
八白	七赤	六白	五黄	四緑	三碧	二黒	一白	九紫	八白	七赤	六白	五黄	四緑	三碧
なる	あやふ	やぶる	さる	たひら	さする	ひらく	をさむ	なる	あやふ	あやふ	やぶる	さる	さたむ	たひら
友引	先勝	赤口	大安	佛滅	先負	友引	先勝	赤口	大安	佛滅	先負	友引	先勝	赤口
房	氏	亢	角	軫	井	張	星	柳	鬼	井	角	軫	井	胃

六月 (小) 水無月 風待月

十五日	十四日	十三日	十二日	十一日	十日	九日	八日	七日	六日	五日	四日	三日	二日	一日
	廿四日月 下弦月		廿二日月		廿一日 日)廿日月			十六日月	芒種		十四日月	日)	廿二日月	舊四月
つちのえ辰	ひのえ卯	きのこ丑	きのこ子	みづのさ巳	みづのえ辰	かのえ卯	かのえ寅	つちのえ午	つちのさ未	きのこ巳	きのこ辰	かのえ卯	かのえ寅	きのこ寅
五黄	六白	七赤	八白	九紫	八白	七赤	六白	五黄	四緑	三碧	二黒	一白	九紫	五黄
ひらく	をさむ	なる	あやふ	やぶる	さる	たひら	みつ	のぞく	のぞく	たつ	さする	ひらく	をさむ	たひら
大安	佛滅	先負	友引	先勝	赤口	大安	佛滅	先負	友引	先勝	赤口	大安	佛滅	先勝
畢	鼎	胃	震	巽	室	危	虚	女	牛	斗	箕	尾	心	亢
廿一日	廿九日	廿八日	廿七日	廿六日	廿五日	廿四日	廿三日	廿二日	廿一日	二十日	十九日	十八日	十七日	十六日
	日)	九日上弦月			五日	日)	夏至		廿八日月		廿九日月		廿八日月	廿六日月
みづのさ未	みづのえ午	かのえ巳	かのえ辰	つちのさ卯	つちのえ寅	ひのえ丑	ひのえ子	きのこ亥	きのこ戌	みづのさ酉	みづのえ申	かのえ未	かのえ午	つちのさ巳
八白	九紫	一白	二黒	三碧	四緑	五黄	六白	七赤	八白	九紫	八白	七赤	六白	五黄
なる	たつ	さする	ひらく	をさむ	なる	あやふ	やぶる	さる	さたむ	たひら	さする	ひらく	をさむ	たつ
佛滅	先負	友引	先勝	赤口	大安	佛滅	先負	友引	先勝	赤口	大安	佛滅	先負	先勝
尾	心	房	氏	亢	角	軫	井	張	星	柳	鬼	井	張	胃

七月 (大)

文月 七夕月

十五日	十四日	十三日	十二日	十一日	十日	九日	八日	七日	六日	五日	四日	三日	二日	一日
	廿七日月		廿五日月		廿三日月		廿一日月	小暑		(日) 十七日 滿				舊五月十三日
つちのえ巳	つちのえ辰	ひのえ卯	ひのえ寅	きのこ丑	きのこ子	みづのえ亥	みづのえ戌	かのえ申	かのえ酉	かのえ辰	かのえ卯	きのこ卯	きのこ辰	きのこ申
七赤	八白	九紫	一白	二黒	三碧	四緑	五黄	六白	七赤	八白	九紫	一白	二黒	三碧
をさむ	なる	あやふ	やぶる	さる	さだむ	たひら	みつ	のぞく	たつ	さする	ひらく	をさむ	なる	みつ
先負	友引	先勝	赤口	大安	佛滅	畢	先負	赤口	先勝	佛滅	畢	先負	赤口	大安
柳	鬼	井	釜	釜	畢	畢	畢	釜	釜	畢	畢	畢	畢	釜
卅一日	卅日	廿九日	廿八日	廿七日	廿六日	廿五日	廿四日	廿三日	廿二日	廿一日	二十日	十九日	十八日	十七日
	(日) 十四日月			十一日月	上九 廿日月		日) 處暑		五日 月		三日 月		朔 廿九日 月	舊七月 日
きのこ酉	きのこ申	みづのえ未	みづのえ午	かのえ巳	かのえ辰	つちのえ卯	つちのえ寅	ひのえ丑	ひのえ子	きのこ亥	きのこ戌	みづのえ酉	みづのえ申	かのえ未
九紫	一白	二黒	三碧	四緑	五黄	六白	七赤	八白	九紫	一白	二黒	三碧	四緑	五黄
のぞく	たつ	さする	ひらく	をさむ	なる	あやふ	やぶる	さる	さだむ	たひら	みつ	のぞく	たつ	さする
先負	友引	先勝	赤口	大安	佛滅	畢	先負	赤口	先勝	佛滅	畢	先負	赤口	大安
危	虚	女	牛	斗	箕	尾	心	房	氏	亢	角	軫	翼	張

八月 (大)

葉月 月見月

十五日	十四日	十三日	十二日	十一日	十日	九日	八日	七日	六日	五日	四日	三日	二日	一日
	廿七日月		廿五日月		廿三日月	(日)	立 秋		末 伏		滿 十六日 月	(日)	十 四日 月	舊六月 日
つちのえ巳	つちのえ辰	ひのえ卯	ひのえ寅	きのこ丑	きのこ子	みづのえ亥	みづのえ戌	かのえ申	かのえ酉	つちのえ未	つちのえ午	ひのえ巳	ひのえ辰	きのこ卯
七赤	八白	九紫	一白	二黒	三碧	四緑	五黄	六白	七赤	八白	九紫	一白	二黒	三碧
をさむ	なる	あやふ	やぶる	さる	さだむ	たひら	みつ	のぞく	たつ	さする	ひらく	をさむ	なる	みつ
先負	友引	先勝	赤口	大安	佛滅	畢	先負	赤口	先勝	佛滅	畢	先負	赤口	大安
柳	鬼	井	釜	釜	畢	畢	畢	釜	釜	畢	畢	畢	畢	釜
卅一日	卅日	廿九日	廿八日	廿七日	廿六日	廿五日	廿四日	廿三日	廿二日	廿一日	二十日	十九日	十八日	十七日
	(日) 十四日月			十一日月	上九 廿日月		日) 處暑		五日 月		三日 月		朔 廿九日 月	舊七月 日
きのこ酉	きのこ申	みづのえ未	みづのえ午	かのえ巳	かのえ辰	つちのえ卯	つちのえ寅	ひのえ丑	ひのえ子	きのこ亥	きのこ戌	みづのえ酉	みづのえ申	かのえ未
九紫	一白	二黒	三碧	四緑	五黄	六白	七赤	八白	九紫	一白	二黒	三碧	四緑	五黄
のぞく	たつ	さする	ひらく	をさむ	なる	あやふ	やぶる	さる	さだむ	たひら	みつ	のぞく	たつ	さする
先負	友引	先勝	赤口	大安	佛滅	畢	先負	赤口	先勝	佛滅	畢	先負	赤口	大安
危	虚	女	牛	斗	箕	尾	心	房	氏	亢	角	軫	翼	張

九月 (小) 長月 菊月

十五日	十四日	十三日	十二日	十一日	十日	九日	八日	七日	六日	五日	四日	三日	二日	一日
舊九月朔日		廿八日月		(日)廿五日			白 露		(日)	廿日月		十八日月		廿七日月十六日 廿八日
かのえ子	つちのこ亥	つちのえ辰	ひのこ卯	ひのえ寅	きのこ未	きのえ午	みづのこ巳	みづのえ辰	かのこ卯	かのえ寅	つちのこ丑	つちのえ子	ひのこ亥	ひのえ戌
三碧	四緑	五黄	六白	七赤	八白	九紫	一白	二黒	三碧	四緑	五黄	六白	七赤	八白
たひら	みつ	のぞく	たつ	ささる	ひらく	をさむ	なる	なる	あやふ	やぶる	ささる	さだむ	たひら	みつ
赤口	大安	佛滅	先負	友引	先勝	赤口	大安	佛滅	先負	友引	先勝	赤口	大安	佛滅
蟹	張	星	柳	鬼	井	參	荷	畢	昴	胃	妻	奎	壁	室
十六日	十七日	十八日	十九日	二十日	廿一日	廿二日	廿三日	廿四日	廿五日	廿六日	廿七日	廿八日	廿九日	三十日
朔	三日	四日	五日	六日	七日	八日	九日	十日	十一日	十二日	十三日	十四日	十五日	十六日
かのこ丑	みづのえ寅	きのえ辰	きのこ巳	ひのえ午	ひのこ未	かのえ辰	かのこ卯	つちのえ辰	つちのこ酉	かのこ酉	みづのえ子	みづのこ丑	きのこ未	きのえ午
二黒	一白	九紫	八白	七赤	六白	五黄	四緑	三碧	二黒	一白	九紫	八白	七赤	六白
きたむ	ささる	やぶる	なる	ひらく	をさむ	たつ	ささる	なる	ささる	ひらく	をさむ	なる	ささる	ひらく
友引	先負	佛滅	大安	赤口	先勝	赤口	佛滅	先負	友引	先勝	赤口	佛滅	先負	友引
角	角	亢	房	心	尾	箕	斗	牛	女	虚	危	室	壁	奎

十月 (大) 神無月 時雨月

十五日	十四日	十三日	十二日	十一日	十日	九日	八日	七日	六日	五日	四日	三日	二日	一日
舊九月朔日		廿八日月		(日)廿五日			寒 露		廿日月		十八日月		十六日月	廿七日月
かのえ午	つちのこ巳	つちのえ辰	ひのこ卯	ひのえ寅	きのこ丑	きのえ子	みづのこ亥	みづのえ戌	かのこ酉	かのえ申	つちのこ未	つちのえ午	ひのこ巳	ひのえ辰
九紫	一白	二黒	三碧	四緑	五黄	六白	七赤	八白	九紫	一白	二黒	三碧	四緑	五黄
なる	あやふ	やぶる	ささる	きたむ	たひら	みつる	のぞく	のぞく	たつ	ささる	ひらく	をさむ	なる	あやふ
先負	赤口	大安	佛滅	先負	友引	先勝	赤口	大安	佛滅	先負	友引	先勝	赤口	大安
角	軫	翼	張	星	柳	鬼	井	參	箕	畢	昴	胃	囊	奎
十六日	十七日	十八日	十九日	二十日	廿一日	廿二日	廿三日	廿四日	廿五日	廿六日	廿七日	廿八日	廿九日	三十日
朔	三日	四日	五日	六日	七日	八日	九日	十日	十一日	十二日	十三日	十四日	十五日	十六日
かのこ未	みづのえ申	きのこ酉	きのえ戌	ひのこ亥	ひのえ子	かのこ酉	かのえ辰	つちのこ卯	つちのえ寅	ひのこ丑	ひのえ子	かのこ酉	かのえ申	きのこ未
八白	七赤	六白	五黄	四緑	三碧	二黒	一白	九紫	八白	七赤	六白	五黄	四緑	三碧
をさむ	ひらく	ささる	なる	ひらく	をさむ	たつ	ささる	なる	ささる	ひらく	をさむ	なる	ささる	ひらく
佛滅	先負	赤口	佛滅	先勝	赤口	佛滅	先負	友引	先勝	赤口	佛滅	先負	友引	先勝
亢	房	心	尾	箕	斗	牛	女	虚	危	室	壁	奎	軫	角

十一月 (小) 霜月 霜降月

十五日	十四日	十三日	十二日	十一日	十日	九日	八日	七日	六日	五日	四日	三日	二日	一日
(日)	舊十月朔日											明治節	廿日	日
かのこ丑	かのえ子	つちのこ亥	つちのこ戌	つちのこ酉	ひのこ申	きのこ未	きのこ午	きのこ辰	みづのこ巳	かのご卯	かのご寅	つちのこ丑	つちのこ子	ひのこ亥
五黄	六白	七赤	八白	九紫	一白	二黒	三碧	四緑	五黄	六白	七赤	八白	九紫	一白
みつる	のぞく	たつ	さする	ひらく	をかむ	なる	さする	ひらく	をかむ	なる	さする	ひらく	をかむ	なる
大安	佛滅	友引	赤口	佛滅	友引	赤口	佛滅	友引	赤口	佛滅	友引	赤口	佛滅	友引
房	辰	亢	角	軫	翼	鬼	井	參	井	參	井	參	井	參

十六日	十七日	十八日	十九日	二十日	廿一日	廿二日	廿三日	廿四日	廿五日	廿六日	廿七日	廿八日	廿九日	卅一日
三日	五日	七日	九日	十一日	十三日	十五日	十七日	十九日	廿一日	廿三日	廿五日	廿七日	廿九日	十一月朔日
みづのこ寅	きのこ巳	きのこ辰	きのこ卯	ひのこ未	ひのこ午	かのご酉	かのご申	かのご辰	かのご卯	かのご寅	かのご丑	かのご子	かのご亥	かのご戌
九紫	四緑	二黒	三碧	一白	八白	七赤	六白	五黄	四緑	三碧	二黒	一白	九紫	八白
なる	たひら	さする	さする	ひらく	をかむ	なる	さする	ひらく	をかむ	なる	さする	ひらく	をかむ	なる
先勝	友引	赤口	佛滅	友引	赤口	佛滅	友引	赤口	佛滅	友引	赤口	佛滅	友引	赤口
箕	尾	斗	箕	斗	牛	女	虚	危	室	壁	奎	婁	胃	井

十二月 (大) 節 冬至 春待月

十五日	十四日	十三日	十二日	十一日	十日	九日	八日	七日	六日	五日	四日	三日	二日	一日
	朔	(日)		廿八日月		廿六日月		大雪	(日)	廿二日月		廿日月		十月朔日
かのこ未	かのえ午	つちのこ巳	つちのこ辰	ひのこ卯	ひのこ寅	きのこ丑	きのこ子	みづのこ亥	みづのこ戌	かのご酉	かのご申	つちのこ未	つちのこ午	ひのこ巳
八白	七赤	六白	五黄	四緑	三碧	二黒	一白	一白	二黒	三碧	四緑	五黄	六白	七赤
あやふ	やぶる	さする	さたむ	たひら	みつる	のぞく	たつ	さする	さする	ひらく	をかむ	なる	あやふ	やぶる
赤口	大安	先負	友引	先勝	赤口	大安	佛滅	先負	友引	赤口	佛滅	友引	赤口	佛滅
尾	心	房	氏	亢	角	軫	翼	張	星	柳	鬼	井	參	箕

十六日	十七日	十八日	十九日	二十日	廿一日	廿二日	廿三日	廿四日	廿五日	廿六日	廿七日	廿八日	廿九日	卅一日
三日月	五日月	七日月	九日月	十一日	十三日	十五日	十七日	十九日	廿一日	廿三日	廿五日	廿七日	廿九日	十一月朔日
みづのこ申	きのこ酉	きのこ戌	きのこ亥	ひのこ子	ひのこ丑	かのご寅	かのご卯	かのご辰	かのご巳	かのご午	かのご未	かのご申	かのご酉	かのご戌
九紫	一白	二黒	三碧	四緑	五黄	六白	七赤	八白	九紫	一白	二黒	三碧	四緑	五黄
なる	をかむ	ひらく	さする	さする	ひらく	をかむ	なる	さする	ひらく	をかむ	なる	さする	ひらく	をかむ
先勝	友引	赤口	佛滅	友引	赤口	佛滅	友引	赤口	佛滅	友引	赤口	佛滅	友引	赤口
箕	斗	牛	女	虚	危	室	壁	奎	婁	胃	井	參	房	心

岐阜の日出、日入時刻

月	日	日出	日入
一月	一日	七、〇二	四、五〇
一月	十一日	七、〇三	四、五九
一月	廿一日	七、〇〇	五、〇八
二月	十日	六、四六	五、二九
二月	二十日	六、三六	五、一九
三月	十一日	六、二四	五、〇八
三月	廿一日	六、一四	四、五八
三月	卅一日	六、〇三	四、四八
四月	十日	五、五三	四、三九
四月	廿十日	五、四三	四、三〇
五月	十日	五、三三	四、二一
五月	廿十日	五、二四	四、一三
六月	十日	五、一四	四、〇五
六月	廿十日	五、〇五	三、五七
七月	七日	四、五七	三、四九
七月	廿七日	四、四八	三、四一
八月	八日	四、四〇	三、三三
八月	廿八日	四、三一	三、二五
九月	七日	四、二二	三、〇六
九月	廿七日	四、一三	二、五八
十月	七日	四、〇五	二、五〇
十月	廿七日	三、五六	二、四二
十一月	七日	三、四七	二、三三
十一月	廿七日	三、三九	二、二五
十二月	七日	三、三〇	二、一六
十二月	廿七日	三、二二	二、〇八
十二月	卅一日	三、一四	二、〇〇

各地氣温ノ月中最高及年中最高ノ平均

測候所	一月	二月	三月	四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月	年
大阪	四、四	四、四	四、五	五、二	六、一	七、〇	七、七	八、二	八、六	八、八	八、七	八、五	八、一
岐阜	一、一	一、一	一、二	一、六	二、三	三、一	三、七	四、二	四、五	四、六	四、五	四、三	四、〇
高山	(一)	(一)	一、二	一、六	二、三	三、一	三、七	四、二	四、五	四、六	四、五	四、三	四、〇
東京	七、一	七、三	七、七	八、二	八、六	九、〇	九、二	九、二	九、一	八、九	八、七	八、五	八、二

各地降水日數

測候所	一月	二月	三月	四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月	年
大阪	七、八	七、二	六、八	六、四	五、九	五、二	四、七	四、二	三、七	三、二	二、七	二、二	三、〇
岐阜	一、一	一、一	一、一	一、一	一、一	一、一	一、一	一、一	一、一	一、一	一、一	一、一	一、一
高山	〇、二	一、八	一、八	一、四	一、一	一、一	一、一	一、一	一、一	一、一	一、一	一、一	一、一
東京	一、五	一、二	一、三	一、三	一、四	一、三	一、二	一、一	一、一	一、一	一、一	一、一	一、一

各地霜雪ノ季節

測候所	平均	最	平均	最	平均	最	平均	最	平均	最	平均	最
大阪	三月四日	明治四年二月四日	三月二日	昭和六年四月七日	二月四日	明治三年十月三日	四月七日	明治五年四月七日	四月七日	明治五年四月七日	四月七日	明治五年四月七日
岐阜	三月二日	明治七年二月六日	三月二日	昭和三年四月二日	二月一日	明治四年十月二日	四月二日	明治五年四月二日	四月二日	明治五年四月二日	四月二日	明治五年四月二日
高山	二月二日	大正二年十月三日	四月二日	明治五年五月三日	十月二日	明治四年十月二日	四月二日	明治五年四月二日	四月二日	明治五年四月二日	四月二日	明治五年四月二日
東京	三月三日	明治三年二月二日	八月〇日	明治三年四月〇日	十一月二日	明治四年十月二日	四月七日	明治五年四月七日	四月七日	明治五年四月七日	四月七日	明治五年四月七日



今年の運氣は油断すれば危険に陥る不安心なる年である、何事にも心を引き締めて氣移りを起さざれば咎なきものである、易は水天需の卦に當り大水に船出の止まりたる状態の如くなれば、氣は焦ることも暫らくの間は時を待たるゝ心の餘裕が肝要である、其の間に充分に英氣を養ひて、勝算の立ちたる上は傍目も振らず一意専心に全力を注がれるれば前途に曙光を認むる様になるべし。「荒天に船出あやうししはらくは浪靜まるを待つぞやすけき」急功を望まず、耐忍して家業を勵まるゝに宜しと知るべし。

### ◎一白の人各月の運勢

- △一月 福祿身に備りて快樂味を嘗めるも、縮りなくして底より抜け出す如し、何事も八分目に控へて安全を期せよ。
- △二月 運氣停滯勝ちにて、奮發心を起さざれば氣運は開けざるものなり、交際上の和合が專一なるものとす、援助引立あり。
- △三月 枯木に花の咲く思ひありて、活氣溢する愉快の月柄である。勇氣を振り立て、突き進めば、希望は大抵成就す。
- △四月 青空に飛ぶ小鳥の如く自由の境地に立ちて、爲す所、行ふ所總て通達し得、遠大の計畫を立てるやう心懸けられたし。
- △五月 憂鬱なる月である、空想に駆られ、進退度を失ひ、逆境に陥る恐れあり、廻る才智を働止めて休養する方針を採れ。
- △六月 梅雨霪れに日の目を見る如く、晦々とする氣運である、事業の進展を遂げ、遠方との交易は極めて順調に運ばる。

### ◎二黒の人各月の運勢

- △七月 至極上乘の月である自ら活動力も加り、爲さんとする事は成功の域に達す、千慮の一失と言ふことあり、慎重に進まれよ。
- △八月 八方に手を出して、一方も實入りの無き如し、迷ひ心を起すことなく、初念を貫く耐忍が肝要である。
- △九月 思ひ通りに希望の遂げがたき月、一家氣を揃へて業務に親しまるゝが安全の道である、知己朋友にも温和に交るが肝要。
- △十月 門出に草鞋の鼻緒の切れたる如く、期待せぬ事に依り不利に見舞はるゝものなれば何彼に付き油断はならざるべし、蹉跎の生ぜぬやう、注意周到なれば咎なし。
- △十一月 外敵は立派に見ゆれども、内部は貧弱の觀あり、誠意を籠めて爲すことも、努力する程の成績は揚らず、物事投げ遣りに終らんとするものなれば緊張を要すべし。
- △十二月 努力次第にて幸運の道を迎へるに至るものなり、一家の和合と他人との圓滿は益々前途の開発に資する所多し、従つて目出度き新春を楽しく迎へ得ることが出来る。



今年の運氣は周圍に迷はされて尻込みせず、勇躍一番大に活動すべき年である。人を頼まず自己の才力の及ぶ範圍内にて萬事を處置すべし易は風抽觀の卦に當り、力以上の大望を企つれば、自然と焦慮の氣分を醸、狼狽する、其れより實直に分を守りて、自己の培たる芽を育て上ぐる様丹精すれば、月日と共に伸び上りて、終には甘き果に舌鼓を打つ樂しさを得るが如く一家の繁榮と共に、他の信用を増し尊敬を受くるに至る。「勳勞の手馴るゝほどに育ちゆく畑の實りぞ日々に樂しき一倦かず勉むれば實績は大に揚り福徳に、惠まるゝものである。

### ◎二黒の人各月の運勢

- △一月 向上發展の勢ある月、自己の本分とする所を専念に勉むべし、寶の山に入り込みて終に採り出すべき喜を見る。
- △二月 平運なれども、油断が禍となる、他人や親戚の爲めに迷惑を蒙り散財することあり、新規の計畫や事業の擴張は見合すやうり、新規の計畫や事業の擴張は見合すやうり、大に伸上る時である、自由自在に活動も出来、希望も達せらる、追手に帆を上ぐる如く、彼岸に樂々至到着することを得。
- △三月 信用加り尊敬も高まり繁昌す、自己の信念を以て秩序正しく進まるとよし、交際上には甘言なさに陥らぬやう警戒せらるべし。
- △四月 志す所あるも半は成りて半は調はざるものなれば、期待をかけた過れば後悔あり家業大事に勵まるゝが吉。
- △五月 物事の顛転を生じ易ければ、眼前の私利を思はず、遠き慮を廻らすべし、計畫は控へ目に、輕進妄動は深く戒めらるゝが肝要である輕卒は手ぬかり多く失敗あり。

### ◎二黒の人各月の運勢

- △七月 動搖多く變轉りなきものである、鋭鋒を收めて暫らく休養の時である、焦る心を壓へて慎重なるが安全と心得よ。
- △八月 希望も計畫も撓々しく進まざる月、徒らに苦勞するよりも現状に満足して、他日の奮起に備ふるため英氣の蓄積に心を打込ことあり、不如意の氣運より順調に復らんとする月である、相當の苦勞を嘗むると共に、快樂をも誘起することあり、目的地に近寄る。
- △九月 丹精の果は結ばれて鈴成りの梢を仰ぐが如し、正道を直進して一歩々々踏み締め行かれよ、業務の發展すると共に利益豐大の幸運に惠まる、交渉契約亦順調に成る。
- △十月 他より壓迫され蹴落されて顛落することあり、訴訟争論を避けて親密こそ望まし、利慾一點張は却て損害の恐れあり、人情味を高調して萬事を取計らるべし。
- △十一月 人心和同して家道の繁榮する進展向上の時なれば、協力して萬事に臨まるゝが得策である、縁談、契約、開店の如き前途に光明を發すべく、たゆまず行進を續けられよ。





今年の運氣は幾盛雄大なる勢あり、快刀亂麻を断つゝの氣概を帯び、心猛く勇を奮ひ習を廻らし、目的に向はるれば百福家門に集まる吉運の年である。易は天火同人の卦に當り、天日萬國に輝き光明の四方に及ぶの象とす。堅實なる精神と優秀なる頭腦とを以て傍目も振らす全力を傾注して功果擧るべし、物事の善惡邪正は自ら判別し得べきも、勢の趣く所思慮分別を失念する事共足元に注意せらるゝが肝要である。東の空ほのぼの明けて暮る日の恵みをは今日もたへん。日々の平和幸福を感謝して業務にいそしめ

### ◎二碧の人各月の運勢

- △一月 千里の道も一歩よりの覺悟を以て堅實に進めは順調に物事の運はるものである。我慾一點張は他より利に誘はれ却て失敗あり
- △二月 日輪雲に惹かれた如く前途の光明失はれ易き月。思案に餘りたる事は目上の指圖に従ひて我意を通さぬが安全と知るべし。
- △三月 雲の層も深くなり雨風に流れんとする兆ありて努力の甲斐もなく矢策せんとするものなれば順調に深く慎しめ。
- △四月 意氣消沈して何事にも氣乗りせず無理から手を出せば再起難き程の損害を蒙る時の不利なるに觀念して本業の衰退を防げ
- △五月 諸事滞礙着身に身を處すれば平順に歸す自ら腕に力の籠り來りて勇氣勃々といふ狀に進めども思ひの他に振舞へば悔あり。
- △六月 奮心奮起し功を急がず着々として盡力せらるべし。尤分に満足を得、人心和同して家門の榮えんとするものなり、遠方との交流は家外の好成績を擧ん。
- △七月 波瀾多き月、何事も辛抱第一と耐忍するが安全、一家協力して家業に親めば咎なく不運に遭遇せば益々不良に傾くのである。
- △八月 目上と關係を生じ意氣今す現存仲間多き月、我意を慎み融和を謀れ、誠實に自己の職責を盡さるやうすれば良運に向ふべし。
- △九月 氣分爽快にして萬事面白く活動し得る事共に希望も著々成り目的も順調に達す躊躇せず自己の信念に向つて進め。
- △十月 我意を奮さず不器用か抱かす氣面日に自己の才能に導きして事を謀る分には繁榮を見る、萬一の僥倖を夢みて大利を得んとすれば失敗の上落懸に復さんこと容易ならず。
- △十一月 無理の計畫を構つれば手道を生ずることあれども思慮を廻らし一歩々々進めば意外に良成績を獲得するものである、物事取極苦勞に過ぐるは好機を失ふ故注意せよ。
- △十二月 小より大を積む心掛けにて他の意見をしめ酌を加へ歩みか移さるゝが宜し、醫者を戒め浪費やイキ経費を引締め一家を治むる様せらるゝが第一なり和協け繁榮の望。



今年の運氣は身の程を知り野心を起さず急がず倦まず何事も手堅く開拓に勉めらるれば安穩の年である。易は雷水解の卦に當り、從來よりの苦勞は多少緩和されて、一家に和氣加はり次第に軟か味の湧き出づるものである。釘を打込むに拳骨では殆んど不可能なるのみならず、却て手に疵を求め痛みを感じるに過ぎざる如く物事に無理を行へば破敗失策を招くべきのみ、又衛生を重んじ攝養を守りて病厄を退散せねばならぬ。「組み立つる家の礎ゆるぎなく柱構へもささぐのひにけり」基礎は既に堅實なれば後の骨組は一家協力して建設に努めらるゝがよし。

### ◎四縁の人各月の運勢

- △一月 幸運に恵まれ多少の無理も通らんとする月、志す所に直進せらるゝが宜し、正道を踏み他に迷惑を懸げざるやう努力せよ。
- △二月 相當の苦勞を嘗め物事思ひ通りに運ばざり月、我儘の振舞は一層危険に近寄るが故成るべく協議の上他の才覺を仰げ。
- △三月 氣分鬱陶しく物事に倦意を生じ易き月、氣を引立て、謀を施すも無駄に終るものなれば手出しせぬが安全、只本業を守るべし
- △四月 不如意の事多けれども一概に悲觀するに及ばず、著實に足固めなし力強く進め他の同情も加はり引立てもあり。
- △五月 外見宜しき様に見ゆれども輕卒に處理して後悔すること多き月である、自ら迷ふ心も起り利慾に心昏みて損害を擴大す注意。
- △六月 守勢より轉じて稍攻勢の方針に依り進が得策である、其も充分に見込を立てたる上の事にて慎重を缺かぬやう警戒せられよ、勇氣は能く難關を切り抜け得る兆あり。
- △七月 夕立の過ぎ去つた後の如く晴々しき氣分に恵まれ愉快に職分に就き物事拂ひ目的の貫徹を見、商賣繁昌一家隆盛の喜あり。
- △八月 餘り勢の盛なるに乗じて足元の落し穴に氣付かず失策を招くものである、我意高慢は出世の妨げとなる。
- △九月 自己の本業を實直に努むれば向上する月意外な福祿にも恵まれ立身すべし、他人の幸福に憧れ大望を企つるは失敗の基。
- △十月 幸福に會し家運優勢に進展發達を見る月である、萬事積極的の行動に出て計畫成り利益多大といふべし、事毎に満足を得意氣大に擡り樂しく業務に没頭し得べし。
- △十一月 妄想に駆られ一氣に志望を遂げんとして過ちあるものなり、定業に安んじ篤實に勵まれば自ら福徳は一家に充實するものである、虚言に迷はされて失敗を招く注意。
- △十二月 半途に障礙起りて挫折することあり注意周囲の事情を充分に究めて輕動せざるが吉家内に病難の起り易き兆ある故平生よりの衛生攝養が肝要である。



今年の運氣は神威を奪ひ、我輩高慢の會長は衆人に擯斥せられ目的も滞り勝ちなる年とす。易は山天大畜の卦に當り、淺水に舟を行く象にして容易く進みがたきが如し、強て舟行すれば淺灘に乗り上げて身動きならざるに至る、忠實に自己の本分を守り、地位高くとも誇らず慈しみの志を以て下を憐れみ、永く尊信を保たんと心に掛ければ、水嵩も追々増し操る舟も自由に動くが如く、希望を遂ぐるに至る。「手馴れた棹に操る舟」も淺灘をいかで漕ぎ渡るべき」油断と不注意は意外の失策を生じ易く、無理の行動は取り返しのつかぬ結果を招くを知るべし。

### ◎五黄の人各月の運勢

- △一月 新春當りの幸運月で順次に氣運の開け行く月、唯他の言ふことを信じて過ぎ誘惑に陥り易し、信念を變へず前進を続けよ。
- △二月 蘇きたる種子も芽を出したし進々に成育する如き状態を呈する月、花を咲かせ實を結はせるも自分の丹精一つこころ得られよ。
- △三月 人事を盡して天命を待つべき月である、十分なる成績を擧げんとして七、八分に終るも蒸騰せず一家協力し目的に向はるべし
- △四月 更に勇氣を振り立て、物事に躊躇せず貫徹に努めらるべし、取越苦勞を先に立て遂行することあれば却て期待に外る。
- △五月 諸事滯滞となり手も多く不安の月である、我意と我儘は深く慎み長上賢者の意見を容れて間違ひを避けられよ。
- △六月 兎角去就に迷ひ易く進退共に危険に陥り易き時である、目上の指圖に従ひ輕卒の行動なく思ひざる利福を待つることもあり又立身の手堅くあることもあり。

### ◎六白の人各月の運勢

- △七月 心を引締め慎重なる態度を以て萬事に當れば咎を免る、物事停滯するも落膽せず前途を樂しみに辛抱せらるるが安全。
- △八月 氣運に不足は無ければも優勢に過ぐれば思ひ掛けぬ失敗を招く、才能に誇らず分限を忘れず忠實に本業を營まらるるが吉。
- △九月 衆人の尊敬と信用を深めて運氣は向上し、家業も發展す、是れ一切他よりの援助引立に依る自分の力と慢心するな。
- △十月 運氣盛んとなりて益々繁昌を呈すべき時である、奮勵努力こそ望ましきものにて熱心なる程希望に接近す、他人の世話事は差控へ又健康に注意せられよ。
- △十一月 萬事控へ目に處せらるべき月である、萬業に出精して他事に心を移さざれば平穩を保ち咎を免ることを得べし、交際上の注意と病厄に罹らざるやう警戒あれ。
- △十二月 深慮遠謀を以て事に當らるれば大に發展を呈すべき幸運月である、眼前の私利にのみ心を奪はれ輕動する時は思はざる難儀に遭ふことあれば分別が要である。



今年の運氣は奇立つ心を壓へて慎重に進退すれば繁榮を招くべき年である、易は地雷復の卦に當り、地を掘りて寶を得るの象である、熟慮して計畫を立て目的の決りたる上はたこへ一度に志を得ざるも屈せず努むれば再三にして成り、一家の基礎は益々實實なるべし、憐情は人のためならず、親族知己の世話には力及び限り盡すは當然なれど、程よく爲されれば陥穽もあるべく注意肝要である。「朝夕に勤みて流す身の汗も玉となるべき家の寶ぞ」一家協力して奮勵怠らざれば幸福多大にして前途には光明の射し込む有望なる年柄といふべし。

### ◎六白の人各月の運勢

- △一月 安定を失ひ危険に陥り易き警戒月である、吾等困難多く漢擡げは一層の勞苦に見舞はる、休養專一こころ得て本業を守るべし。
- △二月 優勢なる氣運に會し、順調に進展發達を來たすべき吉兆月、金錢問題には不利益の結果を招くことあり、貸借上に注意せよ。
- △三月 骨折甲斐の生ずる時なれば耐忍を旨として八方に力を注がれるがよろし、然れども迂曲に人の言に迷はざるな。
- △四月 慎重に行動すべき月である、下手に動き大害を蒙る兆がある、分限を守れ、住居の變動を生じ易けれど安に動ざるが安全。
- △五月 幸運にして萬事喜びに満たさるべき月である、企業開店によし、進んで努力せられよ、又目上の引立も多く成功の兆あり。
- △六月 成功の塔も基礎より崩れ倒んぞするが如し、投資計畫は暫く見合せて安りに手出しせぬが安全と心得られよ、財布の口を堅く締めて洩れぬやう用心するが吉。

### ◎七白の人各月の運勢

- △七月 警戒を要すべき月、不意に横合より邪魔が起り再び起つ勇氣を失ひ悲観に暮るるものである、思立つ事ありても控へよ。
- △八月 地中に潜みし龍の時を得て天上する勢あり勇奮して萬事を取進べ、豫期以上の奏功を呈し一家の繁榮を見る證文の紛擾注意利を招く、定業に出精して他事に心を移さざるが安全である、又病厄を防ぐべし。
- △九月 氣運平康を保つべきも慎重ならざれば不利を招く、定業に出精して他事に心を移さざるが安全である、又病厄を防ぐべし。
- △十月 進退共に成果を収めがたく時を待つが得策である、殊に目上の指圖に従ひて何事に我意を主張せぬ心懸けを肝要とする、怪我病難等の起り易ければ平生の注意あれ。
- △十一月 富盛榮達の盛運に會し願望進達の時である、多少の無理をも突き徹す程の勢を有し満足を得べきものなり、但し耐忍を忘れ倦き易き傾あるが故辛抱第一とせよ。
- △十二月 和同協力を主として足並を揃へ前進せらるるがよし物事疑惑の雲に蔽はれて躊躇するが如きは好機を失ふものなれど信念を堅くして熱誠を加へられよ商家は殊に發展す



今年の運氣は救ふ神あれば見捨つる神もある如く正直第一に過すべき年である。易は澤地萃の卦に當り、上下相感じ彼我相應じて順にして喜ぶの象である。安きに居て苦を忘れず難に處して屈托せず誠心誠意に事に當れ、神に仕ふるに、誠を以てする如く事を處するに真なるべからず、不真面目なれば神にも見離され人にも排斥せらるべし、寸陰を惜しみ職務に勉勵すれば難儀に會することあるも他より援助を蒙り再起難なし、何事にも短慮を慎み油断手逃なきやう注意せよ。「己が身に宿る心の誠をば神さも仰ぎいそむぞよき」信仰心を強め神の助けを受くるやうにせられよ。

### ◎七赤の人各月の運勢

- △一月 物事熱心に努力するに拘はらず苦勞甲斐の無き月である、半途に挫折を生じ易きものなれば無理行動は深く戒しむべし。
- △二月 従來の重壓に堪へ能く其の本分を守りて隱忍の功を奏するに至る、勉強と熱心とは益々一身の向上一家の進展を見る。
- △三月 意外の點より逆境に陥り思はざる事に依り災禍を招く、自己の業務を堅實に勵まるとが安全なり、移轉施行見合すがよし。
- △四月 繁業の氣運に向ひ計畫は順調に展開する時である、難關に出遇ふも屈することなく氣を張り立て、直進せらるべし。
- △五月 平穩無事に過ごし得る月である、滯滞も蹉跌もなく終に志を達し家道大に向上の氣運に至る又月上の引立も多く便宜加はる。
- △六月 他の誘惑に心移さず自分の天職とする所に一心を打ち込むがよろし、然らざれば安定を失ひ轉落して窮境に陥るものなり、又怪我病難に對り易きものなれば豫防せよ。

### ◎八白の人各月の運勢

- △七月 朽たる橋を渡らんとする如き月、意外の過失を生ずる恐れあり、萬事控へ目なるが安全、證文契約等他日に間違ひを起し易し。
- △八月 氣運旺盛にして謀る事爲す所意の如く行はれ得る兆あり、新規の計畫或は擴張の思想等進んで功を奏するに至る。
- △九月 思慮分別を失ひ我意を張り才智に蔽りて築き上げたものも一日にて崩壊せしむる程の失敗無きにあらず、輕卒を戒しめ。
- △十月 兎角發展を妨ぐる事多く又身分に變動あるべし、外觀は至極結構なる様なれども内實は宜しからず見掛倒しの意あり、本業を守りて他に望みを懐かぬが平穩である。
- △十一月 多幸慶福の月柄にて温順を旨として物事を取り謀れば自ら進展する勢あり、他よりの同情も深く力添へも厚く計畫成就するに至る、心構へを堅實に迷ひを去るべし。
- △十二月 一步を踏み外せば深淵なる状態に墮落するの兆がある、一家協力して靜かに業務に勵み新春を迎ふるの用意が肝要である、移轉は見合せるが宜し。



今年の運氣は曲折波瀾多きものなれば自折不撓の意氣を以て難關の突破に努むべき年である。易は火山蹇の卦に當り堀や小山の障礙物に妨げらるる象である。体力と精神とを以て此の妨害を突破する覺悟が必要である。艱難勞苦に堪へて障礙を排除し自己の力を信じて努力せねばならぬ。艱難汝を正にすといひ輕動に陥らず慎重に進めば福は却て福となるものである。自己の本分を失はざるやう寛仁大度なれ。「離れたる矢は何處にか飛び去らん心の弦を締めよ解かに」狼狽へ騒がず的の外れなきやう沈着に行動せられ最後の榮冠を獲得せらるべきである。

### ◎八白の人各月の運勢

- △一月 優秀なる發展性に富める幸運の時、身分に應じて其々の富貴榮達を測すべきものなれば實直に本分を盡さるべきが宜し。
- △二月 思ひ立ちたる事も無駄に終らんとする不如意の折なり、焦慮は一段の不幸を誘致するに過ぎざるべし注意せよ。
- △三月 諸事順調にして平地に車を曳くの思あり怠れば車の進み鈍く急げば意の盡く所に早く達すべし、努力次第で希望を遂げ成功す。
- △四月 頗る旺盛の氣運を迎ふ月、本業は發達し希望は貫徹し富貴榮昌の喜びを見る、傍目を振らず耐忍努力せらるるに吉なり。
- △五月 幸運の餘勢衰へず平順を自ち得べき月、然とも其餘勢を藉りて無益に過ぐれば失敗なきにあらず、地位榮華を保つに努めよ。
- △六月 謀る事志こ反して其れがため難みの深からんとする月である、再び起ちがたき痛手を負ふことあるが故總ての計畫は思ひ止まるに如かず不利と顧りて進んば是なり。

### ◎八白の人各月の運勢

- △七月 更に不良の度を加へ思ひ掛けざる困難に遭遇する月、本業を守りて虚榮を戒め損を避くるが安全又病難怪我盜賊の禍なきあり。
- △八月 稍秋眉を開き心配事も薄らぐ兆あれども油断は禁物なり、巨利を恃せんとして却て損害當み希望を貫かんとして陥罪に落つ。
- △九月 吉凶の別るる所好機を逸せず常に八方に即を配り發奮すべき時、甲斷と勇氣とは一家繁榮の根となる、發奮せざるが勝ち。
- △十月 發展力加はりて愉快に活動し得る月である、遠方との取引家居しての賑引共に意志通りに運び得べし、才力の及ぶ限り奮闘せらるるによろし、但し和合を缺くなかれ。
- △十一月 無理な行動を採れば功少く發展を阻害する月である、進んで災禍を求めんよりも無爲に靜かに退き守るに如かざるべし、企業開店等差控へられよ。
- △十二月 當年最後の幸運月にて莫大の利益を收め得る吉兆あり、官商加はり榮華の向上を呈すべく上下の親和を旨として交りを結ばれよ、萬事に處するに應は戒むべし。



今年の運氣は明暗性を帯ぶる反面には昏暗性を含めるものにて明暗両途に呻吟する年である。易は離爲火の卦に當り秋葉風に漂ふの意あり。草木の花咲き實を結びたる後に秋風訪れて一葉の地に墜つる如く憂を生じ悲み起るものなり才氣に任せて一時は華々しき展開を見れども後の衰微を思ひて勢に乗ぜざるが安全である。父母兄弟などに遠く離れ易き兆あれば平生の親和が大切である。樂しきに耽れず哀みに滅入らず、至誠を一貫して時期の轉換を待たるるによろし。岐れ路に迷ふ廣野の一人旅往き交ふ人待つぞかし「とき」思ひ患ふ事あれば我意を捨て賢者の意に従はるべし

◎九紫の人各月の運勢

- △一月 感情に捉はれて理智を失ひ後悔すること多き月である。人に先立たず他の指揮に従ひて進退を決せらるるが宜し。
- △二月 天祐宏大にして盛運の中に育まるる月、焦慮を漢み忍耐を主として熱心に目的に向ひ前進せるべし得る所多大なり。
- △三月 運氣滯滞に陥り鬼角沈み勝ちなる月である。心迷ひの爲めに氣力のみ徒費せられ苦勞を増すべし、正業を守るべし。
- △四月 計畫は理想的なれども氣運の件はざる憾みあり、前進するには尙早し、無駄骨を折らざるや、慎重なるが安全、言語を慎むと共に依頼事は避くべし。
- △五月 開運の月である、時機の如何を審みにして進歩の態度を持し努力せらるれば福祿の増大を見る、倦かず怠らず勵まるべし。
- △六月 内外和合し榮達すべき月である、一安協力して業務を勵まるれば期せずして意外の利得を得む、但し災禍に逢ふことあるべし。
- △七月 奮心を更に喚起して成す所ある月柄なり、一攫千金を夢み急功を望むは墜跌を生じ顛落の憂き目を見るに至るべし。
- △八月 進んで損せず退いて益ある幸運の月である、去就共に思ひの儘に行動せられよ、一家の富盛一身の榮昌に抱擁せらるる。
- △九月 些細の事より大事を誘發する不安の月、小事なりと油断すること無く慎重に取り計れ、長上の裁断を仰ぐやうせらるべし。
- △十月 輕卒なる所行に依りて苦勞の種を蒔く月である、利慾の爲めには眼昏みて前後を忘るる恐れあり、五常の道を守りて熱心に本業を養ふるが無事安穩な心得られよ。
- △十一月 自己の一見のみを以て物事を行はず協力の上徐ろに進むべき月である、氣運の良好なると共に採るべき方針に依り異狀の發達を來たすもので經營圖に當るべし。
- △十二月 前途堪りて意の如くならず運滯多かるべし、日の西に沈みて暗夜を迎るが如くなれば希望ありとも行はず年の改まるを待たるるが安全である、商業上の收支償ひ難し。

出生届 (嫡子)

何縣何郡何町何番地戸主  
父 職業 何 子 某  
母 職業 何  
出生ノ時 年月日時  
出生ノ場所 何郡何町何番地  
右出生届出候也

何郡何町何番地戸主  
父 職業 何 子 某  
母 職業 何  
出生ノ時 年月日時  
出生ノ場所 何郡何町何番地  
右出生届出候也

出生届 (寄留地ニテノ届出)

何郡何町何番地戸主  
父 職業 何 子 某  
母 職業 何  
出生ノ時 年月日時  
出生ノ場所 何縣何町何番地  
右届出候也

何郡何町何番地戸主  
父 職業 何 子 某  
母 職業 何  
出生ノ時 年月日時  
出生ノ場所 何縣何町何番地  
右届出候也

出生届 (庶子母ノ家)

何郡何町何番地戸主  
父 職業 何 子 某  
母 職業 何  
出生ノ時 年月日時  
出生ノ場所 何郡何町何番地  
右出生届出候也

何郡何町何番地戸主  
父 職業 何 子 某  
母 職業 何  
出生ノ時 年月日時  
出生ノ場所 何郡何町何番地  
右出生届出候也

出生届 (私生子)

何市何區何町何番地戸主  
職業何某二女  
母 職業 姓  
出生ノ時 年月日時  
出生ノ場所 何市何區何町何番地  
右出生届出候也

右届出人 母 姓 名  
何市何區長 何 某殿 生年月日

出生届 (私生子戸主ヨリ届出ノ場合)

何市何區何町何番地戸主  
職業何某養女  
母 職業 姓  
出生ノ時 年月日時  
出生ノ場所 何市何區何町何番地  
右出生届出候也

右届出人 母 姓 名  
何市何區長 何 某殿 生年月日

私生子認知届

何市何町何番地戸主  
金物業何某妹  
母 無職業 何  
右私生子女 何  
年 月 日 生年月日

右届出人 何市何町何番地戸主  
認知者 荒物業 何 某殿 生年月日

養子縁組届

何市何町何番地  
戸主石炭商  
養父 堤 茂平 生年月日  
養母 無業 俊子 生年月日  
何市何町何番地  
戸主青物商三宅傳八三男  
母雪子 三郎 生年月日

右養子縁組届出候也

右届出人 養父 堤 茂平 生年月日  
養母 堤 俊子 生年月日  
養子 三宅 三郎 生年月日  
何市何町何番地  
戸主白米商 行友 新八郎 生年月日

何市何町何番地  
戸主會社員 阿部 豊吉 生年月日

右養子縁組ニ同意ス

養子ノ父及戸主 三宅 傳八郎 生年月日  
養子ノ母 三宅 雪子 生年月日  
何市何町何番地 何 某殿 生年月日

養子縁組届 (夫婦養子ノ場合)

何市何區何町何番地戸主無業  
養父 大森 伊八 生年月日

養母

何市何區何町何番地戸主 生年月日  
ラヂオ商金子若八二男  
母 無業 富子  
養子 新一郎 生年月日  
何市何區何町何番地戸主  
無業大谷新左衛門妹  
父亡大谷新兵衛三女  
母無業コマ  
養子 新一郎妻 春 江 生年月日  
年 月 日 何市何區何町何番地戸主  
大谷新兵衛三女婚姻届日同受付入籍  
右養子縁組届出候也

右届出人 養父 大森 伊八 生年月日  
養母 大森 みよ 生年月日  
養子 金子 新一郎 生年月日  
養子 金子 春 江 生年月日  
何市何區何町何番地新炭商  
近藤 男 吉郎 生年月日

何市何區何町何番地酒造業

伊丹 右衛門 生年月日  
右養子縁組ニ同意ス  
養父ノ母 大森 タキ 生年月日  
養子ノ父及戸主 金子 君八郎 生年月日  
養子ノ母 金子 富子 生年月日  
養子ノ實家ノ戸主 大谷 新左衛門 生年月日  
何市何區長 何 某殿

養子縁組届 (養子ガ十五歳未滿ノ場合)

何市何區何町何番地戸主  
製藥業 養父 大谷 義一 生年月日  
養母 福子 生年月日  
何市何町何番地戸主  
農業三木武平弟殿業眞一三男母クニ  
養子 廣太郎 生年月日

右届出人

養父 大谷 義一 生年月日  
養母 福子 生年月日  
養子 廣太郎 生年月日  
養子縁組ノ承諾ヲナス  
父 三木 眞一 生年月日  
母 クニ 生年月日  
何市何町何番地酒造業  
何市何區何町何番地職業  
何市何區何町何番地職業  
何市何區長 何 某殿 生年月日

右養子縁組ニ同意ス

養子ノ戸主 三木 武平 生年月日  
何市何區長 何 某殿  
養子離縁届  
何市何町何番地戸主  
養父 職業 森下 守平 生年月日



養母 職業 鶴子 生年月日 虎男 生年月日

養子 職業 虎男 生年月日

右戸男實家何郡何町何番地戸主職業何某二男二復籍 母何子

右養子離縁届出候也 年 月 日

右届出人 森下守平 養父 森下鶴子 養母 森下虎男 證人 何郡何町何番地 職業 何 何郡何町何番地 職業 何 養子ノ實父 何 生年月日 養子ノ實母 何 生年月日 何郡何町長 何 某殿 生年月日

何縣何郡何町大字何番地 戸主長兵衛長男 農 夫 村山武男 生年月日

何縣何郡何村字何番地 右父 山村長兵衛 右母 ひで 何縣何郡何町何番地 戸主巽二女 無業 妻 水川ふさ子 生年月日

何縣何郡何町何番地 右父 水川 右母 壽美子 生年月日

右婚姻届出候也 年 月 日

届出人 夫 山村武夫 妻 水川ふさ子 證人 何郡何町何番地 廣田 何郡何村何番地 證人 佐藤幸吉 生年月日 何縣何郡何町長 何 某殿 右婚姻ニ同意ス

同意者 夫ノ家ノ戸主 山村長兵衛 生年月日

同意者 夫ノ家ニ在ル母 山村ひで 同意者 妻ノ家ノ戸主 水川 同意者 妻ノ家ニ在ル父 水川 同意者 妻ノ家ニ在ル母 水川壽美子 生年月日

何年何月何日婚姻届出 何郡何町何番地戸主 父何郡何町何番地職業 三宅八右衛門二男 母タケ 夫 職業 三宅幸太郎 生年月日 何郡何町何番地戸主 職業神保殿妹ニ復籍 父職業神保利之 母亡コト 妻 職業 スマ子

右離縁届出候也 年 月 日 生年月日

右届出人 夫 三宅幸太郎 妻 三宅コマ子 証人 何郡何町何番地 職業 何 何郡何町何番地 職業 何 何郡何町何番地 職業 何 生年月日 何郡何町何番地 職業 何 生年月日 右離縁ニ同意ス 夫ノ父 三宅八右衛門 生年月日 夫ノ母 三宅タケ 生年月日 妻ノ實家ノ戸主 神保殿 生年月日 妻ノ父 神保利之 生年月日 妻ノ母 神保スマ子 生年月日 何郡何町長 何 某殿 夫ガ三十年妻二十五年以上ナレバ同意者ヲ必要トセス

後見開始届 (法定後見) 何郡何町何番地戸主 職業池田大八弟 被後見人 池田仁吉 住所同上 池田大八 生年月日 右仁吉ニ對シ親權ヲ行フ者ナキニヨリ昭 和何年何月何日後見開始 右大八何々何年何月何日就職 右後見開始届出候也 年 月 日 右届出人 池田大八 何郡何町長 何 某殿

後見人更迭届 何郡何町何番地戸主職業 被後見人 宮武鶴吉 生年月日 何郡何町何番地戸主職業 被後見人 南部修太郎 生年月日 右鶴吉ニ對シ親權ヲフモノナキニヨリ昭 和何年何月何日後見開始

右南部修太郎昭和何年何月何日前任者金 非吹一ト更迭 右後見人更迭届出候也 年 月 日 右届出人 南部修太郎 何郡何町長 何 某殿 備考 更迭ニ關スル證明書添付ノコト 但シ後見人更迭ノ場合ハソノ必要ナシ

後見人任務終了届 何郡何町何番地戸主職業 何某弟職業 被後見人 鶴橋龜雄 生年月日 何郡何町何番地職業 被後見人 田宮又次郎 生年月日 右又次郎昭和何年何月何日就職 被後見人龜雄死亡或ハ其ノ理由ニヨリ 昭和何年何月何日任務終了 右後見人任務終了届出候也 年 月 日 右届出人 田宮又次郎 何郡何町長 何 某殿

隱居届(六十一年以上ノ男)

稻葉那加納町五番地戸主職業  
隱居者 飯沼 源兵衛  
生年月日  
右源兵衛長男職業  
家督相續人 飯沼 三郎  
生年月日  
右源兵衛六十年以上ナルニヨリ長男三郎ノ家督相續軍純承認ヲ得テ隱居ス  
右隱居届出候也  
年 月 日

家督相續届

本縣那北方町七番地  
職業者 飯沼 源兵衛  
家督相續人 飯沼 三郎  
右家督相續軍純承認ヲナス  
稻葉那加納町長吉川勇殿  
飯沼 三郎  
本縣那北方町七番地  
職業者 宮 本利雄  
右前戸主太一郎死亡ニヨリ利雄何年何月何日家督相續戸主トナル  
右家督相續届出候也  
年 月 日

住所寄留届

本籍地 何郡何町何番地戸主  
職業者 某某  
寄留者 職業 何  
同妻 職業 何  
同長男 職業 何  
寄留地 何郡何町何番地  
右住所寄留届出候也  
年 月 日  
右届出人 右帯主 何  
世帯主 何  
家主 何  
何郡何町長 何  
某某

失踪届

何市何區何町何番地戸主  
職業者 北村 鶴子  
失踪者 北村 鶴子  
失踪ノ宣告アリタル日  
昭和何年何月何日  
期間満了ノ日  
昭和何年何月何日  
右失踪届出候也

右届出人

宮 本利雄  
前戸主隱居ニヨル場合ハソノ旨記載ノコト

家督相續人指定届

何郡何町何番地戸主職業  
相續人 中川 哲  
何郡何町何番地戸主職業  
被相續人 大宅 壯一  
生年月日  
法定推定家督相續人ナキニ付右哲ヲ指定ス  
右家督相續人指定届出候也  
年 月 日  
何郡何町長 何 某殿

分家届

何郡何町何番地戸主職業  
渡邊清兵衛二男  
母職業者 渡邊 清  
分家戸主 職業者 渡邊 清  
分家地 何郡何町何番地

死亡届(家族死亡)

何郡何町何番地戸主  
職業者 大江サキ  
死亡者 職業者 大江サキ  
死亡ノ時 昭和何年何月何日午前七時二十分  
死亡ノ場所 何々郡何町何番地  
右死亡届出候也  
年 月 日  
右届出人 右届出人 大江 常彦  
戸主 大江 常彦  
生年月日  
何町長 何 某殿  
※備考 醫師ノ診断書添付ノコト

死亡届(戸主死亡)

何郡何町何番地  
戸主職業者 神尾 貴一  
何郡何町大字何々何番地  
戸主職業者 神尾 貴一  
死亡者 神尾 貴一  
生年月日

所在地同上

右分家届出候也  
年 月 日  
右届出人 渡邊 清  
本家戸主及父 渡邊 清兵衛  
生年月日

除籍届(離婚ノ際)

何郡何町何番地戸主職業  
何某二女  
何 子  
何郡何町何番地戸主職業  
何某長男  
何子何年何月何日離婚實家へ復籍ノ際除籍ヲサザリシニヨル  
昭和何年何月何日除籍許可ノ裁判確定  
右除籍届出候也  
年 月 日  
右届出人 何 某  
何町長 何 某殿  
※備考 許可書ノ謄本添付ノコト

死亡届(寄留地)

本籍地 何縣何町何番地  
戸主何某弟  
寄留地 何縣何町何番地  
死亡者 職業者 三島 峰吉  
死亡ノ時 昭和何年何月何日午前十時  
死亡ノ場所 何縣何町何番地何々病院  
右死亡届出候也  
年 月 日  
右届出人 右届出人 神尾 トク  
亡妻一妻 神尾 トク  
何町長 何 某殿  
※備考 醫師ノ診断書添付ノコト

死亡届(戸主死亡)

何郡何町何番地  
何縣何町何番地  
何 某  
何町長 何 某殿  
※備考 診断書添付ノコト

軍事篇

帝國陸軍經費の趨勢(單位千圓)

Table showing Imperial Army expenditure trends from 1906 to 1928. Columns include '經常費' (Regular Expenses), '臨時費' (Temporary Expenses), '計' (Total), and '總歳出千分比' (Total Expenditure as a percentage of total budget). Rows list years from '日清役直前' to '昭和八年度'.

帝國海軍經費の趨勢(單位千圓)

Table showing Imperial Navy expenditure trends from 1906 to 1928. Columns include '經常費' (Regular Expenses), '臨時費' (Temporary Expenses), '計' (Total), and '總歳出千分比' (Total Expenditure as a percentage of total budget). Rows list years from '日清役直前' to '昭和八年度'.

陸軍

陸軍航空陣の擴充

陸軍では十年間豫算に約四千八百萬圓を防空、航空經費に計上して、次の四項目にわたる擴充計畫を進めつつあるが、この完成には約四ヶ年を要する見込みである。
一、飛行團の新設 飛行隊の増加につれ飛行團を岐阜、朝鮮、臺灣の三ヶ所に新設し、團長は少將をもつて、軍司令官または師團長の隷下に入る。岐阜飛行團は第一、第二、第七隊を中心にして編成されるが、第三(八日市)第四(大井)第五(立川)の各隊は従前通りの獨立隊として營隊團に属する。
二、防衛司令部の新設と高射砲隊の増加 防衛司令部は別項の通り、高射砲隊は千葉縣國府臺、滋賀縣大津および佐賀の三ヶ所を、朝鮮、臺灣に各一隊新設される。
三、飛行學校の擴張 現在の所澤(機務)下志津(偵察戰術)明野(空中戰術)空射擊

防衛司令部令

火器の取扱(濠松(機務)の四校の外に、操縦下士官の養成所を熊谷に、將校下士官の技術學校を所澤に新設し、濠松の學校を擴張して爆發方面の將校下士官を養成。
四、航空本部の改革 本部の組織を總務第一、第二の三部制とし、總務部は人事庶務、經理會計、各種調査、第一部は教育演習、第二部は技術、補給検査を掌り、各部長は少將とし、内一名は中將をなすことを得る、また補給廠を新設し、本廠を東京(立川)支廠を立川、各務ヶ原、平壤、屏東に置くことになつてゐる。
次に航空本部長直屬の監督官を置いて東京大阪、名古屋地方の工場、指導、検査に當らしめる。
防衛司令部の新設
陸軍では防空の萬全を期するために、東京大阪、小倉の三ヶ所に防衛司令部を新設すべく防衛司令部令を公布した。因に東部防衛司令部(東京)は十年八月一日より開設されて居るが中部(大阪)東に西無(小倉)防衛司令部は昭和十二年八月一日より開設のす。
[昭和三十二年五月二十九日官報軍令第八號]
第一條 東京に東部防衛司令部を、大阪に中部防衛司令部を、小倉に西部防衛司令部を置く。
第二條 防衛司令部に左の職員を置く、司令官、參謀長、參謀副官、部下士官、判任文官
第三條 防衛司令官は陸軍大將または中將を以てこれに親補し、天皇に直隸し要地の防空の計畫に任ず、西部防衛司令官は前項の外要系の防禦計畫を擔任す
第四條 防衛司令官は軍政及人事に關しては陸軍大臣、作戰計畫及動員計畫に關しては參謀總長の區處を承く
第五條 東部及中部防衛司令官は其の擔任する防空計畫上必要な事項に就き關係師團長(第九師團長を除く以下同じ)を區處する事を得。西部防衛司令官は防空計畫及び要塞一の防禦計畫上必要な事項に就き關係師團長を區處する事を得又朝鮮に在る關係師團長に對しては朝鮮軍司令官に協議の上區處する事を得。







父島 (一)	東京府小笠原父島
由良 (四)	兵庫縣津名郡由良町
豊津 (六)	大分縣佐賀關町
奄美大島 (六)	鹿児島縣大島郡東方村
津輕 (七)	函館
下關 (十二)	下關
對馬 (十二)	長崎縣下縣郡鶴知村
佐世保 (十二)	佐世保
長崎 (十二)	長崎
查岐 (十二)	長崎縣武生水町
舞鶴 (十六)	京都府加佐郡餘内村
鎮海灣 (朝鮮軍)	慶尙南道鎮海邑
永興灣 (朝鮮軍)	元山
基隆 (臺灣軍)	基隆
澎湖島 (臺灣軍)	澎湖廳馬公街
旅順 (關東軍)	旅順

陸軍各學校所在地

工科學校	東京小川區小石川町
經理學校	同 牛込區若松町
軍醫學校	同 牛込區戸山町
獸醫學校	同世田谷區下代田町
參謀本部所屬	東京市赤坂區青山北町
教育總監部所屬	東京市牛込區若松町
砲工學校	千代田縣千代田郡賀村
步兵學校	同 同 郡 二宮町
騎兵學校	同 同 郡 千代田村
野戰砲兵學校	同 同 郡 千代田村
重砲兵學校	同 同 郡 千代田村
工兵學校	同 同 郡 千代田村
通信學校	同 同 郡 千代田村
自動車學校	同 同 郡 千代田村
習志野學校	千葉縣習志野郡沼田町
戸山學校	東京市牛込區戸山町
士官學校	同 同 市 谷本村町
東京幼年學校	同 同 市 同 戸山町
仙臺教導學校	同 同 市 同 戸山町
豊橋教導學校	同 同 市 同 戸山町
熊本教導學校	同 同 市 同 戸山町

海軍

防備戰隊の新設

(九・一二・一五海軍省公表)  
昭和八年度に新設された警備戰隊と相俟つて各軍港に新たに防備戰隊が設置され鎮守府部隊の体系大いに整ひ、海軍の陣容に一段の強味を加ふることになった。  
この防備戰隊は有事の際には重要な軍港商港の海上防禦に即應し得るのみならず、平時においても防禦に關する研究訓練に一大躍進を期待せられるものである。

新艦種名「水上機母艦」

新たに「水上機母艦」といふ新艦種名が設けられ「特務艦」であつた能登呂、神威はいづれも軍艦能登呂、軍艦神威と呼ばれるやうになり、なほ建造中の新艦千歳はこの水上機母艦である。

海軍航空隊の増設

海軍の陸上航空隊は航空兵力の充實に伴ひ

聯合艦隊

- 第一艦隊 長門、扶桑、山城、榛名
- 第二艦隊 阿武隈、第九驅逐隊、第十驅逐隊、第十一驅逐隊、第十二驅逐隊
- 第三艦隊 阿武隈、第九驅逐隊、第十驅逐隊、第十一驅逐隊、第十二驅逐隊
- 第四艦隊 阿武隈、第九驅逐隊、第十驅逐隊、第十一驅逐隊、第十二驅逐隊
- 第五艦隊 阿武隈、第九驅逐隊、第十驅逐隊、第十一驅逐隊、第十二驅逐隊
- 第六艦隊 阿武隈、第九驅逐隊、第十驅逐隊、第十一驅逐隊、第十二驅逐隊
- 第七艦隊 阿武隈、第九驅逐隊、第十驅逐隊、第十一驅逐隊、第十二驅逐隊
- 第八艦隊 阿武隈、第九驅逐隊、第十驅逐隊、第十一驅逐隊、第十二驅逐隊
- 第九艦隊 阿武隈、第九驅逐隊、第十驅逐隊、第十一驅逐隊、第十二驅逐隊
- 第十艦隊 阿武隈、第九驅逐隊、第十驅逐隊、第十一驅逐隊、第十二驅逐隊
- 第十一艦隊 阿武隈、第九驅逐隊、第十驅逐隊、第十一驅逐隊、第十二驅逐隊
- 第十二艦隊 阿武隈、第九驅逐隊、第十驅逐隊、第十一驅逐隊、第十二驅逐隊
- 第十三艦隊 阿武隈、第九驅逐隊、第十驅逐隊、第十一驅逐隊、第十二驅逐隊
- 第十四艦隊 阿武隈、第九驅逐隊、第十驅逐隊、第十一驅逐隊、第十二驅逐隊
- 第十五艦隊 阿武隈、第九驅逐隊、第十驅逐隊、第十一驅逐隊、第十二驅逐隊
- 第十六艦隊 阿武隈、第九驅逐隊、第十驅逐隊、第十一驅逐隊、第十二驅逐隊
- 第十七艦隊 阿武隈、第九驅逐隊、第十驅逐隊、第十一驅逐隊、第十二驅逐隊
- 第十八艦隊 阿武隈、第九驅逐隊、第十驅逐隊、第十一驅逐隊、第十二驅逐隊
- 第十九艦隊 阿武隈、第九驅逐隊、第十驅逐隊、第十一驅逐隊、第十二驅逐隊
- 第二十艦隊 阿武隈、第九驅逐隊、第十驅逐隊、第十一驅逐隊、第十二驅逐隊

第二艦隊

- 第二潛水戰隊 鬼怒、第十二潛水隊、第十三潛水隊
- 第二航空戰隊 加賀、第廿九驅逐隊
- 第三艦隊 出雲、球磨
- 第十一戰隊 安宅、島村、勢多、堅田
- 第五水雷戰隊 夕張、第十二驅逐隊、第十六驅逐隊

十一年度艦隊新編成

(昭和十年十一月十五日發表)

漸次増設され、現在の所在地 横須賀、館山、霞ヶ浦、大湊、吳、佐世保、大村、佐田のほかに昭和十一年度までに完成の富岡、木更津、鹿屋、舞鶴と四ヶ所に新たに増設されることになつたこれらの陸上航空隊に配属豫定の隊数は總數三十九隊で内譯は左の通り

第一回計畫として 十七隊  
 ロンドン條約後の第一次補充計畫として 十四隊  
 第二次補充計畫として 八隊

帝國艦艇一覽

艦名	排水量	速力	備砲(砲門數)	發射管	竣工年月	製造所
日向	同	同	同	同	同	同
伊勢	同	同	同	同	同	同
山城	同	同	同	同	同	同
扶桑	同	同	同	同	同	同
榛名	同	同	同	同	同	同
霧島	同	同	同	同	同	同
金剛	同	同	同	同	同	同
三隈	同	同	同	同	同	同
赤城	同	同	同	同	同	同
加賀	同	同	同	同	同	同
伊吹	同	同	同	同	同	同
日向	同	同	同	同	同	同

長門	陸奥	比叡	加古	古鷹	衣笠	青葉	妙高	那智	足柄	羽黑	高尾	愛宕	鳥海	摩耶	矢矧	天龍	龍田	球磨	多摩			
一等巡洋艦	一等巡洋艦	一等巡洋艦	一等巡洋艦	一等巡洋艦	一等巡洋艦	一等巡洋艦	一等巡洋艦	一等巡洋艦	一等巡洋艦	一等巡洋艦	一等巡洋艦	一等巡洋艦	一等巡洋艦	一等巡洋艦	一等巡洋艦	一等巡洋艦	一等巡洋艦	一等巡洋艦	一等巡洋艦	一等巡洋艦		
1,200	1,200	1,200	1,200	1,200	1,200	1,200	1,200	1,200	1,200	1,200	1,200	1,200	1,200	1,200	1,200	1,200	1,200	1,200	1,200	1,200		
大正三	大正三	大正三	大正三	大正三	大正三	大正三	大正三	大正三	大正三	大正三	大正三	大正三	大正三	大正三	大正三	大正三	大正三	大正三	大正三	大正三		
横須賀	横須賀	横須賀	神戶川崎	三菱長崎	神戶川崎	三菱長崎	神戶川崎	三菱長崎	神戶川崎	三菱長崎	神戶川崎	三菱長崎	神戶川崎	三菱長崎	神戶川崎	三菱長崎	神戶川崎	三菱長崎	神戶川崎	三菱長崎		
北井	大井	木會	長良	五十鈴	名取	由良	鬼怒	阿武隈	那珂	川内	神通	夕張	最上	三隈	鈴谷	熊野	利根	鳳翔	加賀	赤城	龍驤	
一等巡洋艦	一等巡洋艦	一等巡洋艦	一等巡洋艦	一等巡洋艦	一等巡洋艦	一等巡洋艦	一等巡洋艦	一等巡洋艦	一等巡洋艦	一等巡洋艦	一等巡洋艦	一等巡洋艦	一等巡洋艦	一等巡洋艦	一等巡洋艦	一等巡洋艦	一等巡洋艦	一等巡洋艦	一等巡洋艦	一等巡洋艦	一等巡洋艦	一等巡洋艦
1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000
大正三	大正三	大正三	大正三	大正三	大正三	大正三	大正三	大正三	大正三	大正三	大正三	大正三	大正三	大正三	大正三	大正三	大正三	大正三	大正三	大正三	大正三	大正三
佐世保	神戶川崎	三菱長崎	佐世保	浦賀	三菱長崎	神戶川崎	浦賀	三菱長崎	神戶川崎	浦賀	三菱長崎	神戶川崎	浦賀	三菱長崎	神戶川崎	浦賀	三菱長崎	神戶川崎	浦賀	三菱長崎	神戶川崎	浦賀

能登	神威	千歲	韓崎	駒橋	迅鯨	長鯨	大鯨	常磐	勝力	白鷹	殿島	八重山	沖島	淺間	八雲	吾妻	出雲	
水上機母艦	水上機母艦	水上機母艦	潜水母艦	潜水母艦	潜水母艦	潜水母艦	潜水母艦	潜水母艦	潜水母艦	潜水母艦	潜水母艦	潜水母艦	潜水母艦	潜水母艦	潜水母艦	潜水母艦	潜水母艦	
1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	
大正六	大正六	大正六	大正六	大正六	大正六	大正六	大正六	大正六	大正六	大正六	大正六	大正六	大正六	大正六	大正六	大正六	大正六	
神戶川崎	神戶川崎	神戶川崎	英國本社	大正三	三菱長崎	三菱長崎	三菱長崎	三菱長崎	三菱長崎	三菱長崎	三菱長崎	三菱長崎	三菱長崎	三菱長崎	三菱長崎	三菱長崎	三菱長崎	
磐手	春日	對馬	安宅	宇治	鳥羽	勢多	堅田	比良	保津	熱海	二見	浦風	峰風	澤風	風	神風	朝風	
潜水母艦	潜水母艦	潜水母艦	潜水母艦	潜水母艦	潜水母艦	潜水母艦	潜水母艦	潜水母艦	潜水母艦	潜水母艦	潜水母艦	潜水母艦	潜水母艦	潜水母艦	潜水母艦	潜水母艦	潜水母艦	潜水母艦
1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	
大正三	大正三	大正三	大正三	大正三	大正三	大正三	大正三	大正三	大正三	大正三	大正三	大正三	大正三	大正三	大正三	大正三	大正三	
伊阿社	伊阿社	伊阿社	神戶川崎	神戶川崎	神戶川崎	神戶川崎	神戶川崎	神戶川崎	神戶川崎	神戶川崎	神戶川崎	神戶川崎	神戶川崎	神戶川崎	神戶川崎	神戶川崎	神戶川崎	

と同級、竣工大正十二年五月より十四年十二月  
 陸月 一、三五 同 同 大正五、三 佐世保  
 如月、彌生、卯月、皀月、水無月、文月、長月、菊月、三月月、  
 望月、夕月、の十一隻、陸月と同級竣工大正十四年十一月より昭  
 和二年十月  
 吹雪 一、一〇〇 同 三、七〇(六) 九 昭和八、八 舞 鶴  
 白雪、初雪、義雲、東雲、薄雲、白雲、磯波、浦波、綾波、敷波  
 朝霧、夕霧、天霧、狹霧、曉、曙、連、潮、曉、響、雷、電の二  
 十二隻吹雪と同級、竣工昭和三年六月より八年三月  
 初春 一、三六 同 三、七〇(五) 六 昭和八、九 佐世保  
 子日、初霜、夕暮、若葉、有明の五隻右と同級ほかに白露、時雨  
 村雨、夕立、春雨、五月雨、海風、山嵐、江風、涼風の十隻建造中  
 ◎二等驅逐艦  
 桃 七五三、五三三(〇) 六 大正五、三 佐世保  
 櫻、檜、柳の三隻は桃と同級、竣工大正六年三月より五月  
 榎 七〇〇 同 四 同 七、八 吳  
 楠、栗、梨、竹、柿、梅、菊、葵、萩、薄、藤、葛、葎、菱、蓮  
 葉、蓬、蓼の十八隻は榎と同級、竣工大正七年四月より十二年三月  
 若竹 〇〇 同 同 同 二、九 神戸川崎  
 吳竹、早苗、朝顔、夕顔、芙蓉、刈萱の六隻、若竹と同級、竣工  
 大正十一年十二月より同十三年五月

◎一等潜水艦

伊號	排水量	水上	備砲	發射管	竣工年月	製造所
伊號第一	一、九〇	二七〇	四(三)	六	大正五、三	神戸川崎
伊號第二	同	同	同	同	一五、七	同
伊號第三	同	同	同	同	一五、二	同
伊號第四	同	同	同	同	昭和四、三	同
伊號第五	同	同	三(二)	同	七、七	同
伊號第六	一、〇〇	同	同	同	九、三	潜水同
伊號第七	一、〇〇	同	同	同	九、九	起工 吳
伊號第八	一、〇〇	同	同	同	九、九	起工 神戸川崎
伊號第九	一、〇〇	同	同	同	九、九	起工 神戸川崎
伊號第十	一、〇〇	同	同	同	九、九	起工 神戸川崎
伊號第十一	一、〇〇	同	同	同	九、九	起工 神戸川崎
伊號第十二	一、〇〇	同	同	同	九、九	起工 神戸川崎
伊號第十三	一、〇〇	同	同	同	九、九	起工 神戸川崎
伊號第十四	一、〇〇	同	同	同	九、九	起工 神戸川崎
伊號第十五	一、〇〇	同	同	同	九、九	起工 神戸川崎
伊號第十六	一、〇〇	同	同	同	九、九	起工 神戸川崎
伊號第十七	一、〇〇	同	同	同	九、九	起工 神戸川崎
伊號第十八	一、〇〇	同	同	同	九、九	起工 神戸川崎
伊號第十九	一、〇〇	同	同	同	九、九	起工 神戸川崎
伊號第二十	一、〇〇	同	同	同	九、九	起工 神戸川崎

伊號第六〇 同 同 同 四、三 佐世保  
 伊號第六一 同 同 同 四、四 三菱神戸  
 伊號第六二 同 同 同 五、四 同  
 伊號第六三 同 同 同 三、二 佐世保  
 伊號第六四 同 同 同 五、八 吳  
 伊號第六五 一、〇〇 同 七、三 同  
 伊號第六六 同 同 同 七、二 佐世保  
 伊號第六七 同 同 同 七、八 三菱神戸  
 伊號第六八 一、〇〇 同 九、七 吳  
 六九、七〇、七一、七二、七三、七四、七五は建造中  
 ◎二等潜水艦  
 呂號第一七 七五 短八種高角(一) 六 大正一〇、一〇 吳  
 一八、一九、二五、三隻右と同級、但し一九以下は發射管四  
 呂號第二六 四六 同 四 三、一 佐世保  
 二七、二八の二隻は右と同級  
 呂號第二九 五三 三三 三(一) 四 三、九 神戸川崎  
 三〇、三一、三二の三隻は右と同級  
 呂號第三三 五〇 三三 三(一) 四 昭和五、一〇 進水 吳  
 三四は右と同級、建造中  
 呂號第五一 八五 三七 短八種高角(一) 六 大正九、六 三菱神戸  
 五三、五四、五五、五六の四隻は右と同級、但し五三のみ發射管四  
 呂號第五七 四六 同 四 二、七 同  
 五八、五九の二隻右と同級  
 呂號第六〇 六八 二五 八(一) 六 三、九 同

六一—六八の八隻は右と同級

◎水雷艇

伊號	排水量	速度	艦種	備砲	竣工年月	製造所
千鳥	五五	二六・〇	二・P(二)	二	昭和八、二	舞 鶴
真鶴	同	同	同	同	九、一	藤永田
友鶴	同	同	同	同	九、二	舞 鶴
初雁	同	同	同	同	九、七	藤永田
鴻雁	同	同	同	同	一〇、四	進水 同

◎特務艇

伊號	排水量	速度	艦種	備砲	竣工年月	製造所
朝日	二、四二	一八・〇	練習		明治三、七	英國社
敷島	二、二五	一八・〇	同		三、一	英國社
富士	二、一八	一八・〇	同		一〇、八	同
攝津	二、〇〇	二・〇〇	標的		四、七	吳
膠州	二、〇〇	二・〇〇	測量	八(二)		逸
青島	一、九二	一〇・〇〇	運送	同		亮一 同
洲崎	八、〇〇	一〇・〇〇	同三(一)	八種高角(一)	大正七、九	横須賀
室戸	八、二五	一〇・〇〇	同三(一)	同	三、三	三菱神戸
野島	同	同	同	同	八、三	同
知床	一四、〇〇	一三・〇〇	同三(一)	八種高角(一)	九、九	神戸川崎
襟裳	同	同	同	同	九、三	同
佐多	同	同	同	同	二、四	八種高角(一)
鶴見	同	同	同	同	二、三	横濱船渠





# 航空篇

## ◆本邦民間飛行機數

(塔航證明書登録證明書を有するもの)

制限事項		種別		機數計	
制限なきもの	陸上機	水上機	水上機	陸上機	水上機
曲技飛行に使用するを得ざるもの	陸上機	水上機	水上機	陸上機	水上機
合計	15	2	1	16	3

## ◆本邦民間航空機乗員數

技術證明書受有者

種別		機數計	
飛行機操縦士	一等	二等	三等
航空士	20	10	5
自由氣球操縦士	1	1	1
合計	21	11	6

## ◆本邦民間飛行練習所

名稱	所在地	代表者
日本航空輸送研究所	堺市大湊新公團地	井上 長一
日本飛行學校	東京市蒲田區新宿(事務所)	相羽 有
北日本飛行學校	北海道札幌郡手稲村	中村 孝徳
第一航空學校	千葉縣船橋町	宗里光二郎
名古屋飛行學校	愛知縣春日井郡小幡ヶ原	御原 福平
安藤飛行研究所	愛知縣知多郡旭村新郷子	安藤 孝三
徳島航空學校	徳島市外加茂	横山 友象
日本輕飛行俱樂部	千葉縣津田沼町鷺沼	奈良原三次
帝國飛行學校	千葉縣津田沼町	鈴木 菊雄
東亞飛行專門學校	千葉縣津田沼町	川邊 左見
東京飛行學校	東京市深川區洲崎埋立地	渡藤辰五郎
亞細亞航空學校	東京市深川區洲崎埋立地	飯沼金太郎
日本學生航空聯盟	東京市蒲田區羽田及大阪木津川尻	菅川 良一
關粹義勇飛行隊	大阪府下府津村	菅川 良一

## ◆各國飛行場數(昭和19)

國名	飛行場數	國名	飛行場數
イギリス	35	フランス	101
ドイツ	33	北米合衆國	1,091
イタリア	3	オランダ	2
ベルギー	3	スイス	6
カナダ	7		

## ◆各國民間飛行機操縦士數

國名	人員
イギリス	3,276
フランス	1,055
ドイツ	2,500
北米合衆國	23,200
イタリア	7,000
オランダ	8,000
ベルギー	8,000
イギリス	2,000
南阿聯邦	1,000
新西蘭	300
合計	1,950

## ◆各國民間飛行機數

國名	機數
イギリス	1,000
フランス	1,000
ドイツ	1,000
合計	3,000

國名	機數
北米合衆國	2,500
イタリ	500
日	100
オランダ	100
ベルギー	100
スイス	100
合計	3,300

國名	機數
カナダ	200
南阿聯邦	100
新西蘭	100
合計	400

## ◆本邦飛行場一覽

名稱	所在地	水陸ノ別	滑走區域
東京飛行場	東京市新田區羽田江見町	水陸	東西六〇〇メートル 南北六〇〇メートル
大阪飛行場	大阪市大正區船町	水	東西七二〇メートル 南北四〇〇メートル
福岡飛行場	福岡縣糟屋郡多々良村名島	陸	福岡灣東寄水面一帯 (大阪築港外水面一帯)
蔚山飛行場	朝鮮慶尙南道蔚山郡蔚山面三山里	陸	東西六〇〇メートル 南北六〇〇メートル
京城飛行場	朝鮮京城京畿道高陽郡龍江面汝矣島	陸	東西六〇〇メートル 南北六〇〇メートル
大連飛行場	關東州周水子會周水子屯	陸	直徑六〇〇メートルの圓周地
新潟飛行場	朝鮮平安北道善州郡光城面豐里洞	陸	長、幅トモ六〇〇メートル
松江飛行場	新潟縣北蒲原郡松ヶ崎村	陸	長六〇〇メートル一五〇米長四二七米幅一五〇米
富山飛行場	富山縣婦負郡倉垣村	陸	松江市白瀉埋立地先尖道湖水面
中島大井飛行場	東京市品川區大井南濱	水	長七〇〇メートル 幅一五〇メートル
川西鳴尾飛行場	兵庫縣武庫郡鳴尾村	水	所在地 先 水面
城崎飛行場	兵庫縣城崎町	水	鳴尾村鳴尾字大東地先水面
東雲原飛行場	秋田縣山本郡東雲村	陸	圓山 川 水面
堺大湊飛行場	堺市大湊南町南新公園第六八號地海岸	水	東西七〇〇メートル 南北七〇〇メートル
高知飛行場	高知縣吾川郡長瀬町大字横濱	水	所在地先水面一〇〇平方キロ
宮島飛行場	廣島縣佐伯郡大野村字鼓ヶ濱	水	東西七〇〇メートル 南北六五〇メートル
			長五〇〇メートル 幅三〇〇メートル



現内閣一覽表

Table of the current cabinet members, including Prime Minister, Ministers of State, and Secretaries of State.

岐阜縣廳

知事官房主事(兼) 坂千秋 今井覺次郎

Table listing various departments and their respective heads in the Gifu Prefecture Office, such as Personnel, Finance, and Education.

縣下各警察署長

Table listing the heads of police stations across different districts in Gifu Prefecture, including names and locations.

岐阜縣選出代議士

Table listing the elected representatives from various districts in Gifu Prefecture, including names and their respective districts.

岐阜縣會議員

Table listing the members of the Gifu Prefecture Council, including names and their respective constituencies.

益田郡馬瀨村名丸 二村一雄  
 大野郡高山町大字川西 白野啓助  
 大野郡清見村大字三日町 高山二〇六  
 吉城郡船津町大字朝浦 大坪顯長  
 船津八

◇縣下高專、縣市立中學校長

岐阜藥學專門學校長 比良野 嬌  
 岐阜縣師範學校長 津田克太郎  
 岐阜女子師範學校長 大西 蕙  
 岐阜中學校長 河上和一  
 大垣中學校長 阿部榮之助  
 妻太中學校長 加藤 佐助  
 東濃中學校長 松原 久安  
 本巢中學校長 森田 良克  
 武藏中學校長 梶原 直起  
 海津中學校長 市原 哲夫  
 惠那中學校長 栗田 善吉  
 岐阜第二中學校長 谷田 民夫  
 岐阜高等女學校長 野口 正志  
 大垣高等女學校長 會我邊 福次郎  
 加納高等女學校長(兼) 大西 蕙  
 中津高等女學校長 大場 信可

羽島高等女學校長 海津高等女學校長 本巢高等女學校長 武藏高等女學校長 八幡高等女學校長 高山高等女學校長 多治見高等女學校長 岐阜農林學校長 安八農學校長 揖斐實業學校長 郡上農林學校長 加茂農林學校長 可兒實業學校長 雙太實業學校長 益田農林學校長 土岐實業學校長 多治見工業學校長 第一工業學校長 第二工業學校長 岐阜商業學校長 中津商業學校長 大垣商業學校長 岐阜女子商業學校長 船津實科女學校長 惠那實科女學校長

港辰平 柏原喜右衛門 天野 速 西田 留吉 西田 顯善 森 彦兵衛 池田 安次郎 橋本 隆吉 佐藤 信夫 赤尾 秋一 服部 眞一郎 上窪 信持 安藤 由太郎 伊藤 廣七 阪上 清重 川上 三男 井深 捨吉 高田 善之助 青木 善之助 山崎 芳弘 山崎 實三 松尾 國松 古田 國二 山下 豊太郎

惠南實科女學校長 青年學校教員養成所長(事務取扱) 淺野 之 井上 陽之助 平松 兼五郎 那加高等國民學校長(事務取扱) 高野 長春 岐阜夜間中學校長(事務取扱) 河上 和一  
 ◇岐阜市役所  
 市長 松尾 國松  
 助役 東 前 豊  
 市役 藤吉 光次  
 收入役務課長 高木 子之助  
 庶務課長兼保健課長 豐田 仁三郎  
 勸業課長 福士 繁吉  
 學務兵事課長兼社會課長 佐藤 林藏  
 土木都市計畫課長 安部 源三郎  
 水道課長 松田 余作  
 本莊出張所主事 岡島 甚太郎  
 日野出張所主事 向井 平七  
 長良出張所主事 鹿野 靜三  
 鳥居出張所主事 石 博 敬一  
 三里出張所主事 神野 敬一  
 鷺山出張所主事 大橋 眞惠  
 養護所長兼市立病院院長 大橋 眞惠

◇岐阜市各小學校長

診療所長 渡邊 敬禮  
 職業紹介所長 河野 儀作  
 金華小學校長 加藤 氣作  
 京町小學校長 大野 丈助  
 明德小學校長 西尾 末吉  
 徹明小學校長 伊藤 恭一  
 白山小學校長 近藤 卯三郎  
 梅林小學校長 石黒 頑一  
 木郷小學校長 水谷 儀一  
 華岡小學校長 梅澤 英造  
 本莊小學校長 高橋 一郎  
 日野小學校長 長村 文四郎  
 長良小學校長 江崎 英一  
 鳥小學校長 新貝 清三郎  
 三里小學校長 青木 棟一  
 鷺山小學校長 飯尾 菊三郎

◇大垣市役所

市長 東島 卯八  
 助役 福田 享吉  
 市役 富岡 精吾  
 收入役務會計課長 伊藤 謙三  
 勸業衛生課長 伊藤 謙三

◇大垣市各小學校長

給務課長 後藤 五一  
 庶務課長 種田 武雄  
 職業紹介所長 大野 富之助  
 診療所長 牧野 潔  
 南抗瀾出張所長 川井 一  
 多藝島出張所長 桑原 新吉  
 山田 佳通  
 大垣小學校長 都竹 甚太郎  
 中小學校長 說田 武雄  
 東小學校長 堀部 信三  
 西小學校長 中村 清則  
 南小學校長 水谷 幾松  
 北小學校長 高木 寛一  
 多藝島小學校長 若松 寛吾

◇縣內軍部關係

各務原第一飛行團長 江橋 英次郎  
 各務原陸軍航空支廠長 鈴木 竹徳  
 岐阜憲兵分隊長 柴尾 佐々市  
 岐阜聯隊區司令官 三 橋 濟  
 步兵第六十八聯隊留守隊長 宮城 善助

◇岐阜裁判所

飛行第一聯隊長 藤野市之丞  
 飛行第二聯隊長 竹内 貞郎  
 岐阜衛戍病院長 池山 清  
 岐阜地方裁判所長 白井 茂  
 岐阜檢事局檢事正 南部 金夫

◇縣內郵便局

岐阜郵便局長 高橋 等  
 大垣郵便局長 内藤 豊  
 高山郵便局長 長谷 文男

◇縣內稅務署

岐阜稅務署長 藤原 誠逸  
 大垣 同 村上 三重  
 關 同 細野 融  
 郡上 同 宮部 啓吾  
 多治見 同 坂倉 甚右衛門  
 惠那 同 太田 久吉  
 高山 同 笹島 傳吉

◇町村長一覽

川島 則常方黑木芥岩蘇各鶴前更那北南厚善鶴佐日市鏡加  
武警縣野田見原務沼宮木加長長森見部波置江橋島約  
村羽村村村村村村村村村村村村村村村村村村村村村村

城石西大東吉海今高 桑下上堀江正竹福小足松柳笠八下上中  
山津江江里西尾須 原中中津吉木夕壽熊近枝津松劍羽粟村  
村村村村村村村村村 海村村村村村村村村 津

今玉關岩府青赤宇荒靜綾合表宮垂 時多一牧日多小笠池下上廣養高  
須ヶ原手中墓坂崎里原佐代井 良之瀨田吉藝畑郷邊多度村村村  
村村村村村村村村 村村村村村村村村 破

川富豐大長谷樓北大揖 墨結牧名大福仁淺洲安川三和下北神南中  
合秋木野瀨汲藏方和斐 保 森鍛東木草本井並城合宮野村村村  
村村村村村村村村 村村村村村村村村 娶

彈川船鷺牛穗本生合七西綱文席北 德坂慶久春小養宮八池本清西營  
正崎木田收積田津渡郷郷代殊田方 山内橋瀬日島基地幡田郷水郡  
村村村村村村村村村村村村村村村村村村村村村村

洞上下洲美 北葛谷富櫻大下上梅富山千保春殿岩高 根外山一土眞  
戶收收原濃 山原合波尾桑伊伊原岡縣正戶近美野富 尾山添色  
村村村村村村村村 村村村村村村村村 縣

牛彌山川八 上坂金管神上富中之下富中有知會小瀨藍大南東西北乾板  
道富田合幡 麻ノ山中田淵之保保之野野有知知田尻見矢武武武武武  
村村村村村村 村村村村村村村村 縣

和上下下川三伊加富富田坂加峰山古太 東和西奧口下嵩相西北高白  
知米米藏邊和深田岡原祝野屋上井田 良和良方方川田生川濃鷺鳥  
村村村村村村 村村村村村村村村 茂

郵便電信規則

(白米一升は凡そ二五錢銅貨四個の重さは)

◇ 通常郵便料金表

種別	枚量	換算量	料金	備考	
第一種	有封書状	15グラム…又ハ其端數毎ニ	4 匁	1、容積 長40センチメートル 巾25センチメートル 厚15センチメートル	
	無封書状	35グラム…又ハ其端數毎ニ	3匁3分餘		
第二種	通常端書	—	—		5厘
	往復端書	—	—		
第三種	封緘端書	—	—		5厘
	毎月一回以上刊行スル定期刊行物	75グラム…又ハ其端數毎ニ 110グラム 発行人又ハ賣捌人ヨリ差出ス日刊新聞ニ限リ 110瓦ヲ超ユルトキハ75瓦迄毎ニ	20 匁		
第四種	書籍、印刷物、業務用書類、寫眞、商品見本及學上ノ標本	110グラム…又ハ其端數毎ニ	29匁3分餘	2錢	
	約束郵便(低料)	110グラム…又ハ其端數毎ニ	29匁3分餘		
第五種	農産物種子	110グラム…又ハ其端數毎ニ	29匁3分餘	1錢	

◇ 小包郵便料金表

種別	換算量	枚重量						備考
		500グラム	1キログラム	2キログラム	3キログラム	4キログラム	5キログラム	
内地相互間	普通	—	—	—	—	—	—	1、容積 長巾厚各60センチメートル 巾厚各15センチメートル 内ノハ長90センチメートル以内
	書留	—	—	—	—	—	—	
内地及海外間	普通	10錢	14錢	22錢	30錢	38錢	46錢	2、重量 6キログラム以内
	書留	15錢	21錢	33錢	45錢	57錢	69錢	
日滿小包	書留	42錢	49錢	62錢	75錢	88錢	94錢	1.00錢

多岐見町	土津町	廣見村	平利村	久田村	池田村	小泉村	姫治村	存里村	維子村	土田村	今渡村	兼山見村	伏見村	錦津村	中津村	御嶺村	上之郷村	佐川村	西川村	黒川村	蘇原村	福地村	飯地村	瀬南村	久田村	八百津町
山崎	水前	加藤	水野	小池	波野	生田	小池	鈴木	森川	安藤	加藤	河村	原村	齋藤	小栗	郡	安藤	加藤	藤井	各務	後藤	安藤	山崎	加藤	山崎	加藤
三武	笠野	中野	野川	福木	加藤	川上	坂下	落合	中津	泉	明日	大津	釜戸	土岐	稲津	端田	肥田	會津	鶴田	下木	妻木	笠野	市之	市之	市之	
小伊	野田	山田	永田	寺田	大野	熊谷	岡崎	原田	田口	鈴木	間木	岡田	安藤	森田	小栗	加藤	梶野	加藤	川上	田中	久保	松田	會津	本庄	加藤	
高朝	馬川	下川	上川	中川	竹下	小坂	萩原	上原	三原	静原	明原	吉田	陶田	鶴田	遠山	岩村	本郷	阿木	坂本	東野	大井	長川	大井	大井	大井	
上田	三橋	二橋	都築	加藤	足立	今井	前野	岸野	中野	島尻	郡	田中	近藤	平林	堀木	山田	大土	中土	加藤	梅田	藤村	宮田	西尾	幸田	西尾	
上野	阿部	船津	船津	坂下	坂下	河上	小島	細川	國府	古川	山崎	久野	宮田	白川	清川	莊川	上川	丹波	大賀	大名	高田	高田	高田	高田	高田	
三植	柴田	森田	小島	古田	竹原	布施	野村	清水	本田	郡	野口	早野	岩田	加藤	水野	大津	柿田	生田	川田	中田	直井	直井	直井	直井	直井	



編輯後記

申すも畏きことながら皇居陛下には十一月二十八日午前七時五十七分御分純あらせられ親王殿下御誕生、四日御命名の式執り行はせられ、義宮正仁親王殿下と申しあげらる。即ち第二皇子にまします國基の愈々固く、國体の益々不拔なるを思ひ、一億萬國民擧げて壽き奉つた次第である。又、澄宮崇仁親王殿下には十二月二日をもつて御成年式を舉行あらせられ、畏くも天皇陛下より三笠宮の御稱號を賜り、ここに新しく親王家を御創立遊ばされたのである。續く皇室の御慶事に萬民打ち揃ひて慶福申し上げることを、まことに我神ながらの皇國の美點である。本便覽編輯を早くした

ためこの皇室御慶事の記載が出来なかつたので、ここに謹みて附加する。  
なほ十月一日をもつて行はれた國勢調査の結果は十一月二十五日をもつて内閣統計局から發表されたが帝國全版圖の人口は九千七百六十九萬四千六百二十八人、男四千九百二十四萬六千五百十九、女四千八百四十五萬三千九百六十九人で女白人に對して男一人にさいふ割合で男の方が少し多い。これを、昭和五年の調査結果九〇、三九六、〇四三に比すると七百二十九萬八千五百八十五人即ち八分一厘の増加となつてゐる。而してこれを岐阜縣にみるさ岐阜縣の總人口は、百二十二萬五千八百六十六人、昭和五年より四萬七千四百一人の増、岐阜市は十二萬八千七百七十四人、大垣市四萬九千二百七十六人であつた。左に内地外地の世帯人口數を掲げて置かう。

帝國世帯人口總數

Table with columns for '世帯數' (Household Count) and '人口數' (Population Count), subdivided by '男' (Male) and '女' (Female). It lists data for '昭和五年' (Showa 5) and '大正十四年' (Taisho 14).

一八、七六一、四七三  
九七、六九四、六二八

岐阜驛より各驛への三等汽車賃金

Large table listing railway fares for various stations. Columns include station names (e.g., 東京, 名古屋, 岐阜) and fare amounts. It is organized by railway lines like '東海道線' and '北陸線'.

らか博進躍阜岐は春

會期

櫻花爛漫の陽春

三月廿五日から

昭和十一年

五月十五日まで

五十二日間

萬木新緑の初夏

岐阜市主催

躍進日本大博覽會

會場

景觀を誇る

金華山麓岐阜公園

一帯

鵜飼に名高き

長良川畔

終